



**INTERNATIONAL UNIVERSITY OF JAPAN**

国際大学

Where the World Gathers

2018-19

GSIR 国際関係学研究科  
Graduate School of International Relations

GSIM 国際経営学研究科  
Graduate School of International Management



## 目次

● 国際大学(IUJ)について .....	P.2
● 学長からのメッセージ .....	P.5
● IUJの特長 .....	P.6-7
● カリキュラム .....	P.8
【修士課程】	
国際関係学研究科(GSIR)	
国際関係学プログラム .....	P.9
国際開発学プログラム .....	P.10
公共経営・政策分析プログラム .....	P.11
両研究科ジョイントプログラム	
日本型開発学プログラム .....	P.12-13
国際経営学研究科(GSIM)	
MBAプログラム .....	P.14
MBA1年制プログラム .....	P.15
MBA(2年制と1年制)(図) .....	P.16
交換留学提携校(両研究科) .....	P.17
【博士後期課程】	
国際関係学研究科(GSIR) .....	P.18-19
国際関係学・経済学・公共経営学クラスター	
● 教員情報(両研究科) .....	P.20-21
● パートナリシップ .....	P.22
● キャリア・カウンセリング&サービス .....	P.23
● キャンパスライフ .....	P.24
● キャンパスガイド .....	P.25
● 言語教育研究センター(英語・日本語) .....	P.26
● 入学案内(入試日程、経費、奨学金等) .....	P.27

## 国際大学 (IUJ) について

国際大学 (International University of Japan 略称 IUJ) は、経済界や政府機関、国際機関等を担う強力なリーダーによって、日本初の全ての授業を英語で行う大学院大学として 1982 年に設立されました。設立当初より 9 月入学制度を採用しています。

創立以来約 35 年にわたり、政治、経済、経営等に関する専門的な知識と技能を取得し、かつ、世界が直面する諸課題に取り組むための歴史的・文化的視野を培うことのできる学習と研究の場を提供してきました。約 60 カ国・地域から学生が集まり、優れた教授陣が教育にあたる IUJ では、次の 2 つの研究科で、修士課程と博士後期課程 (国際関係学研究科) を提供しています。

- 国際関係学研究科 (Graduate School of International Relations 略称 GSIR)
- 国際経営学研究科 (Graduate School of International Management 略称 GSIM)

IUJ は、これまで 125 余カ国・地域から 4,300 人以上の修了生を輩出してきました。その幅広い人的ネットワークは、学際的・実践的研究を国内外の国際機関、経済界、政府機関等と協力して行う際に大いに役立っています。

2014 年 9 月、日本社会のグローバル化を牽引する大学として、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」に選定されました。また、2018 年 2 月、国際経営学研究科は、マネジメント教育の国際的な認証評価機関である AACSB より世界でも最高水準の教育を提供する教育機関として認証を取得しました。





## 国際大学 設立の趣旨

1. 国際大学は広くわが国の経済界、教育界並びに地域社会の強い支援を背景に誕生した私学であることに鑑み、国際的進取の精神のもとに自主独立と、自由闊達な運営を基本姿勢とする。
2. 国際大学大学院は高度に専門的且つ学際的学識を具備し、それを国際場裡で実践活用し得る人材を育成することをその主目的とする、新しいプロフェッショナル・スクールである。

1976年（財）国際大学設立準備財団 設立発起人代表（敬称略、肩書当時）：  
 佐々木直（経済同友会代表幹事）、土光敏夫（日本経済団体連合会会長）、  
 永野重雄（日本商工会議所会頭）、水上達三（日本貿易会会長）、  
 中山素平（日本興業銀行相談役）



初代理事長  
中山 素平



理事長  
檜田 松瑩







## 学長からのメッセージ

わが国際大学 (IUJ) は、きわめてユニークな大学です。そのユニークさが大学の最大の財産です。

本学は、日本ではじめての大学院だけの大学で、国際関係と国際経営の分野の二つの研究科で英語だけを基本的な授業言語として、国際経験豊かな多国籍の教授陣から、グローバルリーダーになるための高度なプロフェッショナル教育が行なわれています。

教育プログラムとしては、国際関係、国際開発、公共経営、MBA、日本型開発学、といった多様な修士・博士のプログラムが用意されています。日本型開発学プログラムは2018年から国際協力機構 (JICA) と共同で開始するプログラムで、日本に立地する英語だけの大学院として、世界に日本の論理を英語で発信することも本学の役割の一つと考えて作ったものです。日本の経済発展と企業成長をケース材料としますが、より普遍性のある発展と成長の論理を政治・経済・経営の分野にまたがって学ぶための修士プログラムです。もちろん、他のプログラム所属の学生もこのプログラムの科目を自由に履修することができます。

本学のユニークさは、教育プログラムだけにあるのではなく、学生構成も学生が送る日常生活も、ユニークです。

学生の出身国はじつに多様です。在学生360名弱のうち、8割以上が外国人で、さらにその8割がアジア・アフリカの60近いさまざまな国からの学生で、将来は母国の未来を担う人材たちです。修了生の数も4,300名を超え、その出身国は120を超えます。このような学生構成の大学院大学は、日本にはもちろんありませんし、世界でも稀でしょう。

学生の日常生活もまた、ユニークです。学生は、新潟

国際大学 学長  
伊丹 敬之



の美しい田園が周囲に広がるキャンパスの寮で、自然に囲まれて勉強も生活も共にしています。その日常生活の中から、学生は互いの国について学び合い、そしてふだん着の異文化交流が生まれます。また、学生は新潟の自然と歴史に触れる機会も持ちます。異なる歴史や文化を認め尊重し合うことはグローバルリーダーとしての条件ですが、その姿勢を毎日鍛えられる場にわがキャンパスはなっています。

つまり、本学は、学生たちが好んで言うように、「世界が本当に集まる場」、になっています。本学の創立者・中山素平は、戦後の日本をリードした有名なバンカーですが、彼がグローバルリーダー育成のためにつくりたかった場が、こうして実現されているのです。

日本の将来の発展がアジア・アフリカの発展とともにあることを考えると、その場は日本にとっても、世界にとっても、非常に貴重な財産です。

みなさんが、この貴重な財産に興味をもたれ、自分もその一員となってグローバルなリーダーになるための勉強をしたい、日本とアジア・アフリカを生の人間関係の中で感じたい、と思われることを学長として大いに期待します。

伊丹敬之



# 多文化・多国籍環境下でのリーダーシップ能力を磨く最適な学習環境

高度な実学

全ての教育を英語  
で行う日本初の  
大学院大学

9月入学制

Where the W

## IUJ 在学生の出身国・地域

2018年5月1日現在

358名 60カ国・地域

男性 218名  
女性 140名

GSIR 211名  
GSIM 147名





異文化環境下での  
学・住一体型教育

強固な修了生  
ネットワーク

国内外の有名校、  
企業・機関との連携

# World Gathers

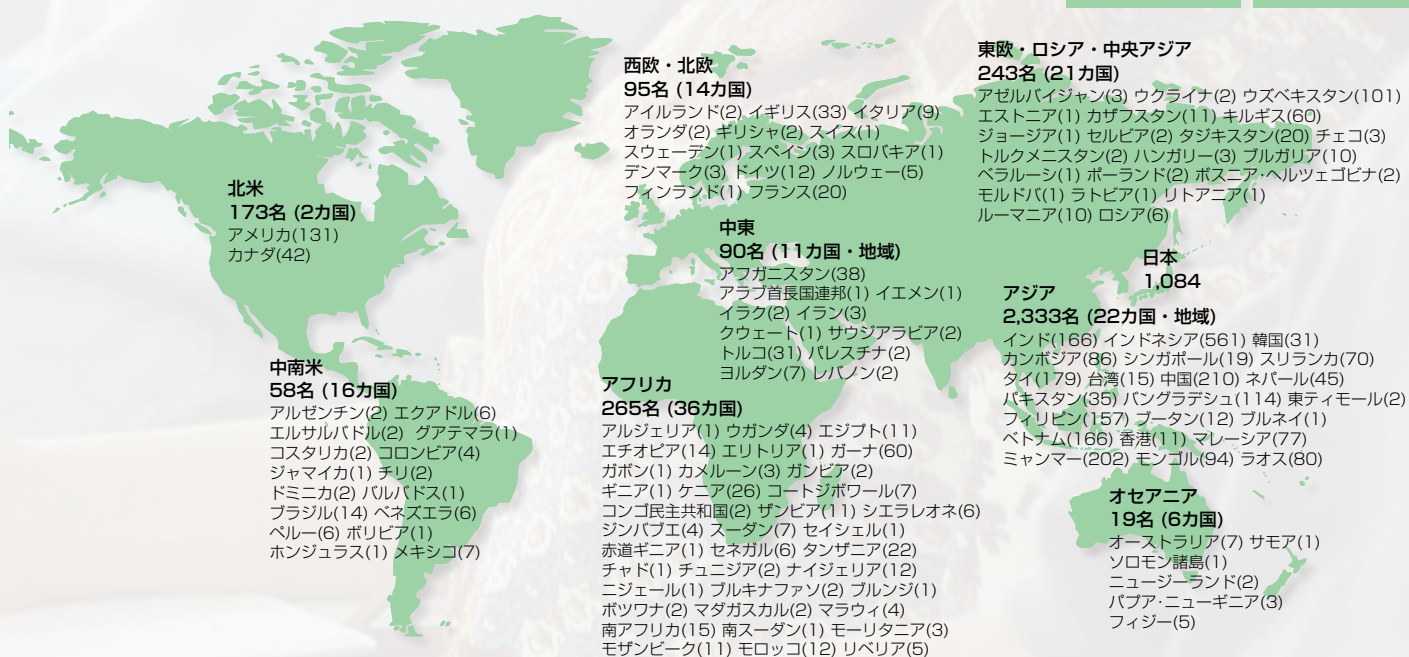
## IUJ 修了生の出身国・地域

2018年7月1日現在

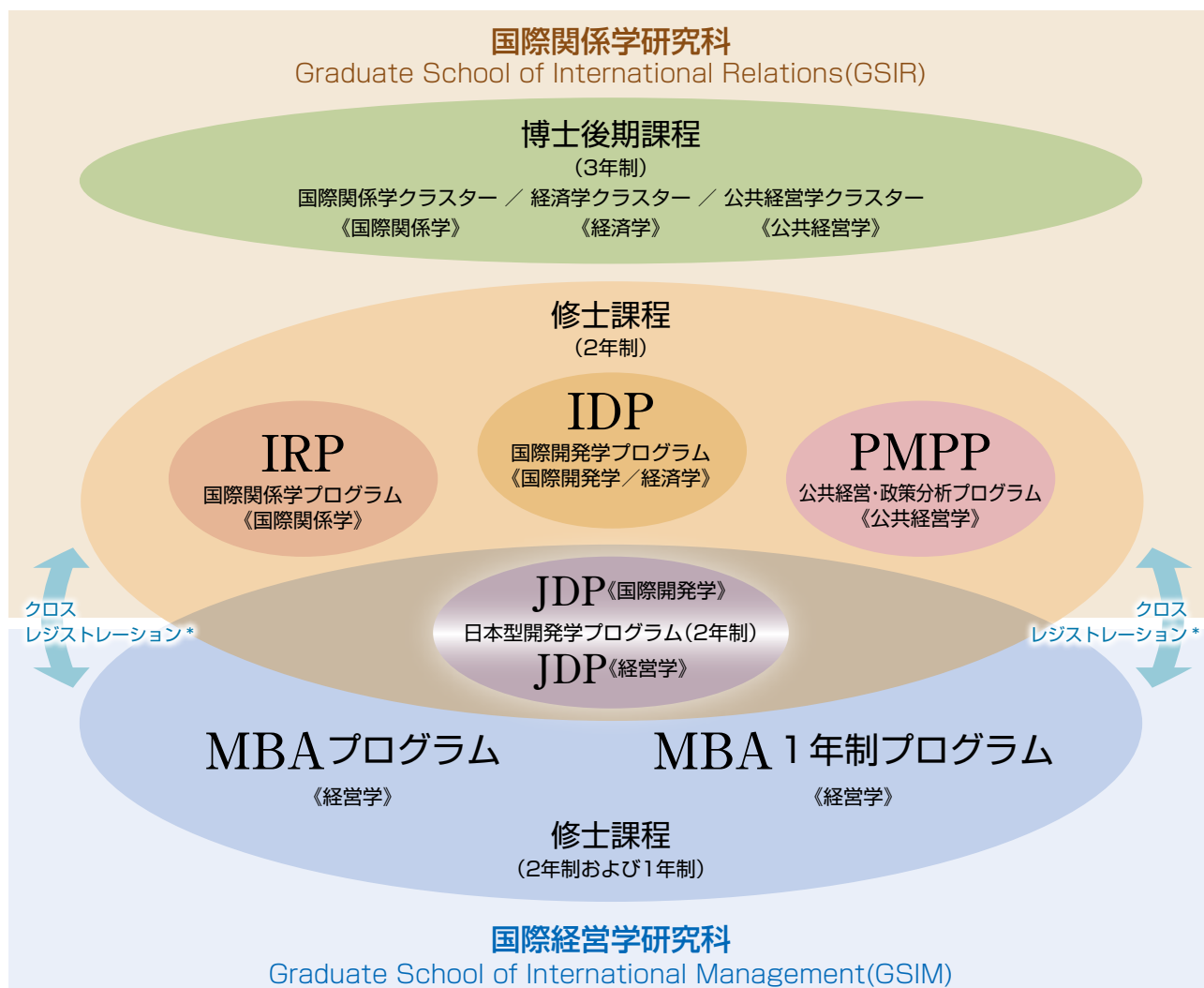
4,360名 129カ国・地域

男性 3,131名  
女性 1,229名

GSIR 2,570名  
GSIM 1,790名



## カリキュラム



\* IUJ独自のクロスレジストレーション・システムは、学生が自己の関心や進路希望に合わせて、所属する研究科以外の選択科目も履修できる制度で、2つの研究科間の教育的相乗効果が期待されます。



国際関係学プログラム（IRP: International Relations Program）では、国際関係学の専門分野における教育を提供しています。

国際関係学プログラムは、国際関係学の基礎概念、理論を学ぶとともに、最新の国際政治、経済、社会の主要な事象や趨勢を包括的、複合的に理解し、分析する能力を高めることを目的としています。国際安全保障、外交政策、平和学を基軸に、武力紛争、テロなどの国際犯罪、難民、極度の貧困、環境破壊、持続可能な開発など、現代のグローバルな社会システムのもとで起きているさまざまな問題や課題の原因分析と解決策を探ります。

少人数制のため、基礎内容の講義、ケーススタディ、そしてクラス討論においても、常に各学生の進歩、興味関心に注意が払われた教育が行われます。また正規のコースでの学習に加えて、学生同士や教員との教室内外での討論や対話を通じて、洞察や知的刺激を受けることができます。IRP の学生は、膨大な量の文献を読み、深く思考し、その上で現実的かつ長期的なビジョンと政策を提示すべく、積極的に議論し、意見を発言することが望まれます。

## カリキュラム

IRP では学生は国際関係学の基礎を習得します。IRP の学生は全員が 9 つの基礎科目のうち 5 つを選択します。

IRP はさらに 29 の応用科目と地域科目を提供しています。これらは国際関係をあらゆる局面から理解するために

必要とされる専門知識、実証研究手法、そして分析力等を習得することを目的としています。地域研究や様々な応用科目を学際的に扱う幅広い領域をカバーする科目群が提供されており、学生は自己の関心に合致した科目を学問的目的に沿って選択することができます。応用科目としては、人間の安全保障、難民、環境問題、持続可能な発展、紛争処理論、国連、国際市民社会などを扱うコースが提供されます。また、地域科目としては、日本、中国、アメリカ、東南アジア、中東、ユーラシア地域のコースが提供されます。2 年間という修学期間を、各自の学問的目標達成にかなう様に活かすことができる柔軟性を、IRP は備えています。

IRP 関連科目の他、本学が指定する 3 つの基本専門分野（国際関係学研究科が指定する「政治学分野」及び「経済学分野」、国際経営学研究科が指定する「経営学分野」）に置かれる基本専門科目群から各分野少なくとも 2 単位、合計 8 単位以上を取得することが求められます。

## 課程修了・学位授与の条件

課程修了の要件は、修士課程に 2 年間に在籍し、合計 40 単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、学位論文または研究レポートを提出し、且つその審査に合格することです。

課程修了時には、修士（国際関係学）の学位が授与されます。修了要件単位の内訳は以下のとおりです。

### 国際関係学プログラム

#### ■ 修士（国際関係学）

選択必修科目 - 18 単位以上または 22 単位以上（基礎科目 / 応用科目 / 地域科目の合計）注 1)		
基礎科目 - 10 単位以上	応用科目 - 4 単位以上	地域科目 - 4 単位以上
<ul style="list-style-type: none"> <li>比較政治論</li> <li>現代国際安全保障論</li> <li>対外政策決定論</li> <li>国際関係史</li> <li>国際人権論：文化、ジェンダー、平等</li> <li>国際経済論</li> <li>国際機構論</li> <li>国際政治経済：比較的アプローチ</li> <li>国際政治学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異文化コミュニケーション論</li> <li>外交と国家</li> <li>外交概論 I</li> <li>外交概論 II</li> <li>環境・持続可能な開発と人間の安全保障</li> <li>基礎経済学</li> <li>国際市民社会論：市民と民主主義</li> <li>グローバル・イシュー*</li> <li>国際紛争処理と平和構築</li> <li>国際法</li> <li>人間の安全保障 II：貧困と人間の安全保障</li> <li>難民・移民と人間の安全保障</li> <li>リサーチ方法論</li> <li>安全保障と戦略：国家と国際関係からの視点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アメリカ対外政策論</li> <li>中国外交論</li> <li>現代日本経済論</li> <li>日本を取り巻く国際政治経済情勢</li> <li>日本の国際関係と外交政策：その開発・発展へのインパクト</li> <li>アジア国際関係 II：ユーラシアの国際関係</li> <li>東南アジアにおける国際関係</li> <li>地域政治特殊研究 I：中東の国際関係</li> <li>明治維新後の世界の中の日本</li> <li>日本の対外援助政策：その開発・発展へのインパクト</li> <li>日本の安全保障政策：その開発・発展へのインパクト</li> <li>日本の財政と行政：その開発・発展へのインパクト</li> <li>戦後の日本経済と国際的発展</li> <li>戦後の日本政治：その開発・発展へのインパクト</li> <li>現代日本における社会問題：モダンとポストモダン</li> </ul>
選択必修科目 - 基本専門科目 各分野から少なくとも 2 単位 計 8 単位以上		
政治学分野（GSIR 提供科目）	経済学分野（GSIR 提供科目）	経営学分野（GSIM 提供科目）
<ul style="list-style-type: none"> <li>比較政治論</li> <li>現代国際安全保障論</li> <li>対外政策決定論</li> <li>国際人権論：文化、ジェンダー、平等</li> <li>公共組織経営</li> <li>行政学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミクロ経済学 I：価格理論</li> <li>マクロ経済学 I：所得理論</li> <li>費用便益分析</li> <li>開発政策とグローバル化</li> <li>基礎経済学</li> <li>国際経済論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>財務会計学</li> <li>国際経営</li> <li>マーケティング・マネジメント</li> <li>オペレーションズ・マネジメント</li> <li>組織行動論</li> <li>経営戦略</li> </ul>
自由選択科目		
教員の指導のもと、国際大学が提供するすべての授業科目（含語学科目）から選択します。但し、修了要件単位に含めることのできる語学科目の単位数は上限 4 単位です。		
指定必修科目 - 特別演習 6 単位 注 2)		
特別演習 I、II、III（論文 / 研究レポート指導）		
修了要件単位数 40 単位		

\* 1 単位の科目

上記履修区分毎の必要単位数を取得することに加え、所属研究科が提供する授業科目から合計 30 単位以上を取得することが求められます。

注 1 選択必修科目の必要単位数は、修士論文を選択した場合（18 単位）と研究レポートを選択した場合（22 単位）で異なります。

注 2 特別演習 I、II、III は指定必修科目で 6 単位を取得することが求められますが、研究レポートを選択した場合は 6 単位中 2 単位のみが、修士論文を選択した場合は 6 単位全てが修了要件に含まれます。





# 国際開発学プログラム

International Development Program

国際開発学プログラム (IDP: International Development Program) では、国際開発学と経済学の2つの専門分野における教育を提供しており、学生は自己の関心・目的に応じていずれかを選択することができます。国際開発学は、開発途上国の重要な政策課題を分析するための経済理論や統計手法を体系的に修得することにより、社会的・経済的開発に向けた経済政策、公共政策を策定し実行できるリーダーの育成を目指します。経済学では、特に財政政策や銀行行政を含むマクロ経済学の分野における専門知識を修得するために最新の経済理論を学び、それを現実問題に応用できる能力を集中的に養成します。

IDP はまた特別プログラムとして、マクロ経済政策プログラム (MPP: Macroeconomic Policy Program) を提供しています。MPP は、IMF (国際通貨基金) 奨学生の中央銀行や財務省、国際機関、または民間金融機関などで働く職業人のためにデザインされたプログラムです。学生は経済理論に基づき、マクロ経済政策と公共金融、中央銀行業務と金融政策、金融市場政策等、マクロ経済に関する様々な諸課題について学びます。

## カリキュラム

国際開発学、経済学いずれも、1年次の秋学期と冬学期には、応用研究の礎となる必修科目を履修します。その後、国際

開発学では、開発政策とグローバル化と開発経済学を必修科目として学びます。これらの科目を通じて、科学的な分析をするために必要となる様々なコンピュータ・ソフトの使い方を修得することができます。1年次後半から2年次のカリキュラムでは、必修科目で得た知識をもとに、選択科目を履修し、さらに高度な専門知識と実践的な理論を幅広く修得します。

学生は、IDP のコースだけでなく、IRP や PMPP、JDP、さらに MBA から多彩な科目を履修することができます。

IDP 関連科目の他、本学が指定する3つの基本専門分野 (国際関係学研究科が指定する「政治学分野」及び「経済学分野」、国際経営学研究科が指定する「経営学分野」) に置かれる基本専門科目群から各分野少なくとも2単位、合計8単位以上を取得することが求められます。

## 課程修了・学位授与の条件

課程修了の要件は、修士課程に2年間在籍し、合計40単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、学位論文または研究レポートを提出し、且つその審査に合格することです。

すべての修了要件を満たした学生には、修士 (国際開発学) あるいは修士 (経済学) が授与されます。修了要件単位の内訳は以下のとおりです。

### 国際開発学プログラム

#### ■ 修士 (国際開発学)

修士 (国際開発学)	
指定必修科目 - 基礎科目 16 単位	
・ミクロ経済学Ⅰ：価格理論	・統計学
・マクロ経済学Ⅰ：所得理論	・計量経済学
・ミクロ経済学Ⅱ：戦略的行動と情報分析	・開発経済学
・マクロ経済学Ⅱ：景気循環と成長理論	・開発政策とグローバル化
選択必修科目 - 2 単位以上または 6 単位以上 注1)	
・ビジネス・プレゼンテーション **	・上級マクロ経済学：政策分析
・現代日本経済論	・経済経営数学
・費用便益分析	・金融経済論と政策分析
・クロスセクション・パネルデータ分析	・開発途上国の金融政策
・貧困と不平等の経済学：モデルと予測	・政策評価論
・環境・医療経済学	・財政学
・金融市場と金融規制 *	・公的予算と財務
・グローバルマーケットセミナー *	・リサーチ方法論
・産業組織論と政策分析	・時系列分析
・制度・戦略的行動と経済発展	
・国際金融論	
・国際貿易論	
・日本の企業金融と日本の金融システム：その開発・発展へのインパクト	
・日本の教育システム：その開発・発展へのインパクト	
・日本の財政と行政：その開発・発展へのインパクト	
** GSIM 科目	
選択必修科目 - 基本専門科目 各分野から少なくとも 2 単位 計 8 単位以上	
政治学分野 (GSIR 提供科目)	経済学分野 (GSIR 提供科目)
・比較政治論	・ミクロ経済学Ⅰ：価格理論
・現代国際安全保障論	・マクロ経済学Ⅰ：所得理論
・対外政策決定論	・費用便益分析
・国際人権論：文化、ジェンダー、平等	・開発政策とグローバル化
・公共組織経営	・基礎経済学
・行政学	・国際経済論
自由選択科目	
教員の指導のもと、国際大学が提供するすべての授業科目 (含語学科目) から選択します。但し、修了要件単位に含めることのできる語学科目の単位数は上限 4 単位です。	
指定必修科目 - 特別演習 6 単位 注2)	
特別演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ (論文/研究レポート指導)	
修了要件単位数 40 単位	

#### ■ 修士 (経済学) ※マクロ経済政策プログラムを含む

修士 (経済学)	
指定必修科目 - 基礎科目 12 単位	
・ミクロ経済学Ⅰ：価格理論	・統計学
・マクロ経済学Ⅰ：所得理論	・計量経済学
・ミクロ経済学Ⅱ：戦略的行動と情報分析	
・マクロ経済学Ⅱ：景気循環と成長理論	
選択必修科目 - 6 単位以上または 10 単位以上 注1)	
・ビジネス・プレゼンテーション **	・日本の財政と行政：その開発・発展へのインパクト
・現代日本経済論	・上級マクロ経済学：政策分析 ***
・費用便益分析	・経済経営数学
・クロスセクション・パネルデータ分析	・金融経済論と政策分析 ***
・開発経済学	・開発途上国の金融政策
・開発政策とグローバル化	・政策評価論
・貧困と不平等の経済学：モデルと予測	・財政学 ***
・環境・医療経済学	・公的予算と財務
・金融市場と金融規制 *	・リサーチ方法論
・グローバルマーケットセミナー *	・時系列分析
・産業組織論と政策分析	
・制度・戦略的行動と経済発展	
・国際金融論 ***	
・国際貿易論 ***	
・日本の企業金融と日本の金融システム：その開発・発展へのインパクト	
・日本の教育システム：その開発・発展へのインパクト	
** GSIM 科目	
マクロ経済政策プログラムの指定必修科目：基礎科目 22 単位 (経済学指定必修科目の 6 科目に加え、上記 *** 表記 5 科が基礎科目となります。)	
特別演習 6 単位	

上記履修区分毎の必要単位数を取得することに加え、所属研究科が提供する授業科目から合計 30 単位以上を取得することが求められます。

注1 修士 (国際開発学) の選択必修科目の必要単位数は、修士論文を選択した場合 (2 単位) と研究レポートを選択した場合 (6 単位) で異なります。修士 (経済学) の選択必修科目の必要単位数は、修士論文を選択した場合 (6 単位) と研究レポートを選択した場合 (10 単位) で異なります。

注2 特別演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは指定必修科目で 6 単位を取得することが求められますが、研究レポートを選択した場合は 6 単位中 2 単位のみが、修士論文を選択した場合は 6 単位全てが修了要件に含まれます。

\*1 単位の科目



公共経営・政策分析プログラム（PMPP: Public Management and Policy Analysis Program）は、公共部門に求められる“グッド・ガバナンス”へのニーズに応えます。

公共部門の適切な運営には、多岐にわたる課題を解決する政策の適正な実施と評価が必要です。PMPP は、環境保護や公衆衛生、電子政府、教育、国家・地域開発、福祉制度改革、国際安全保障等の諸課題を効率的に解決する人材を育成するためのプログラムです。

## カリキュラム

PMPP のカリキュラムは、指定必修科目、選択必修科目、自由選択科目から構成されています。2年間の課程を修了し、修士（公共経営学）を取得するためには、国際関係学研究科の教員による指導の下で、修士論文またはリサーチレポートを執筆することが条件となっています。

指定必修科目は、公共経営や政策分析における諸課題を理解し、公共部門における実際の解決策を見出すために必要不可欠な、公共経営・行政学、経済学、公共財務、会計学、法学、統計学といった学際的・分析的知識とスキルの修得

を目指します。

選択必修科目では、環境問題や保健医療制度、地域開発、電子政府等、公共政策の中でも特定の分野についての知識を修得します。

PMPP 関連科目の他、本学が指定する3つの基本専門分野（国際関係学研究科が指定する「政治学分野」及び「経済学分野」、国際経営学研究科が指定する「経営学分野」）に置かれる基本専門科目群から各分野少なくとも2単位、合計8単位以上を取得することが求められます。

## 課程修了・学位授与の条件

課程修了の要件は、修士課程に2年間在籍し、合計40単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、学位論文または研究レポートを提出し、且つその審査に合格することです。

課程修了時には、修士（公共経営学）の学位が授与されます。修了要件単位の内訳は以下のとおりです。

### 公共経営・政策分析プログラム

#### ■ 修士（公共経営学）

指定必修科目 - 基礎科目 12 単位		
<ul style="list-style-type: none"> <li>公共組織経営</li> <li>行政学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公的予算と財務</li> <li>公共セクターの人的資源管理論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共政策プロセス</li> <li>統計学</li> </ul>
選択必修科目 - 6 単位以上または 10 単位以上 注1)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>資本予算と債務管理</li> <li>協働・参加型ガバナンス</li> <li>費用便益分析</li> <li>計量経済学</li> <li>エネルギー政策</li> <li>環境政策と災害管理</li> <li>情報政策管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>E ガバメント</li> <li>政策分析入門</li> <li>政策モデリング入門</li> <li>日本の教育システム：その開発・発展へのインパクト</li> <li>日本政府と政治*</li> <li>日本の財政と行政：その開発・発展へのインパクト</li> <li>地方自治体と公共サービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マクロ経済学Ⅰ：所得理論</li> <li>経済経営数学</li> <li>ミクロ経済学Ⅰ：価格理論</li> <li>政策評価論</li> <li>公共経営情報システム</li> <li>リサーチ方法論</li> </ul>
選択必修科目 - 基本専門科目 各分野から少なくとも2単位 計8単位以上		
政治学分野（GSIR 提供科目）	経済学分野（GSIR 提供科目）	経営学分野（GSIM 提供科目）
<ul style="list-style-type: none"> <li>比較政治論</li> <li>現代国際安全保障論</li> <li>対外政策決定論</li> <li>国際人権論：文化、ジェンダー、平等</li> <li>公共組織経営</li> <li>行政学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミクロ経済学Ⅰ：価格理論</li> <li>マクロ経済学Ⅰ：所得理論</li> <li>費用便益分析</li> <li>開発政策とグローバル化</li> <li>基礎経済学</li> <li>国際経済論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>財務会計学</li> <li>国際経営</li> <li>マーケティング・マネジメント</li> <li>オペレーションズ・マネジメント</li> <li>組織行動論</li> <li>経営戦略</li> </ul>
自由選択科目		
教員の指導のもと、国際大学が提供するすべての授業科目（含語学科目）から選択します。但し、修了要件単位に含めることのできる語学科目の単位数は上限4単位です。		
指定必修科目 - 特別演習 6 単位 注2)		
特別演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（論文／研究レポート指導）		
修了要件単位数 40 単位		

\* 1 単位の科目

上記履修区分毎の必要単位数を取得することに加え、所属研究科が提供する授業科目から合計30単位以上を取得することが求められます。

注1 選択必修科目の必要単位数は、修士論文を選択した場合（6単位）と研究レポートを選択した場合（10単位）で異なります。

注2 特別演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは指定必修科目で6単位を取得することが求められますが、研究レポートを選択した場合は6単位中2単位のみが、修士論文を選択した場合は6単位全てが修了要件に含まれます。





## 日本型開発学プログラム

Japanese Development Program

日本型開発学プログラム（JDP: Japanese Development Program）は、日本の経済発展と企業成長を主なケース材料として、普遍性のある発展と成長の論理を政治・経済・経営の分野にまたがって学ぶ機会を提供するために、本学が新たに設置した2年制修士プログラムで、以下の点を特長としています。

1. 留学生が、日本の経済発展の背後にある経験から論理と教訓（成功例、失敗例の両面）について学び、自国の経済発展戦略を考えるための知識とスキルを修得する。
2. 日本人が、英語で日本の歴史・文化、経済発展の論理や教訓を学ぶことにより、グローバルな視点から自国を海外へ発信する能力を養う。
3. 将来、国際場で活躍する学生が、日本の経験をケース材料として、経済発展と企業成長の普遍的論理について学ぶ。

JDPは国際関係学研究科の修士課程と国際経営学研究科の修士課程に本学が初めて共通の履修課程として導入する国際人材育成プログラムです。入学者選抜試験は研究科毎に実施されるため、JDPの志願者は、自らの専門分野に基づいて、どちらか一方の研究科に願書を提出していただきます。

### カリキュラム

国際関係学研究科が提供する日本型開発学プログラム（JDP-IR）が開講するJDP関連科目では、主に日本の明治維新以降における国際政治経済環境や戦後日本経済の成長の特徴について学び、さらに日本の外交政策、安全保障、対外支援政策、財政と行政、教育システムが日本の発展にどのように影響を与えたかについて学びます。

#### 【国際関係学研究科】 JDP 関連科目

- 明治維新後の世界の中の日本
- 日本を取り巻く国際政治経済情勢
- 日本の国際関係と外交政策：その開発・発展へのインパクト
- 日本の対外援助政策：その開発・発展へのインパクト
- 戦後の日本経済と国際的発展
- 戦後の日本政治：その開発・発展へのインパクト
- 日本の安全保障政策：その開発・発展へのインパクト
- 日本の財政と行政：その開発・発展へのインパクト
- 日本の教育システム：その開発・発展へのインパクト

国際経営学研究科が提供する日本型開発学プログラム（JDP-IM）が開講するJDP関連科目では、明治維新以降の日本の産業発展とその背後のイノベーション、日本型経営論、企業金融とそれを支える金融システム、日本型雇用慣行と人的資本の蓄積、ものづくり経営、中小企業の発展、企業リーダーなどが日本の経済発展に与えた影響について学びます。

#### 【国際経営学研究科】 JDP 関連科目

- 日本の産業発展とその背後のイノベーション
- 日本の企業システムと日本型経営：その開発・発展へのインパクト
- 日本の企業金融と金融システム：その開発・発展へのインパクト
- 日本の雇用慣行と人的資本の蓄積
- 日本のものづくり経営
- 日本のビジネスリーダー：その開発・発展へのインパクト
- 日本の中小企業：その開発・発展へのインパクト

上記JDP関連科目では、理論的基礎と国際比較の視点を重視した内容が提供されます。

JDP関連科目の他、本学が指定する3つの基本専門分野（国際関係学研究科が指定する「政治学分野」及び「経済学分野」、国際経営学研究科が指定する「経営学分野」）に置かれる基本専門科目群から各分野少なくとも2単位、合計8単位以上を取得することが求められます。また、各研究科の指定必修科目は全て履修しなければなりません。

#### 課程修了・学位授与の条件

課程修了の要件は、修士課程に2年間在籍し、合計40単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、学位論文または研究レポートを提出し、且つその審査に合格することです。修了要件単位の内訳は次ページのとおりです。

国際関係学研究科に所属する学生には修士（国際開発学）が、国際経営学研究科に所属する学生には修士（経営学）がそれぞれ課程修了時に授与されます。

#### JICA 開発大学院連携プログラム

JDPは独立行政法人国際協力機構（JICA）と国際大学とが共同して実施運営するJICA開発大学院連携プログラムです。



## 日本型開発学プログラム

### ■ 修士（国際開発学）

### ■ 修士（経営学）

国際関係学研究科（GSIR）		国際経営学研究科（GSIM）	
指定必修科目－基礎科目 12 単位		指定必修科目－基礎科目 13 単位	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ミクロ経済学Ⅰ：価格理論</li><li>・マクロ経済学Ⅰ：所得理論</li><li>・ミクロ経済学Ⅱ：戦略的行動と情報分析</li><li>・マクロ経済学Ⅱ：景気循環と成長理論</li><li>・統計学</li><li>・計量経済学</li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>・企業財務</li><li>・企業の社会的責任（CSR）論*</li><li>・財務会計学</li><li>・国際経営</li><li>・マーケティング・マネジメント</li><li>・組織行動論</li><li>・経営戦略</li></ul>	
選択必修科目 - JDP 関連科目 16 科目の中から 14 単位以上または 18 単位以上 注1)			
（GSIR 提供科目）		（GSIM 提供科目）	
<ul style="list-style-type: none"><li>・明治維新後の世界の中の日本</li><li>・日本を取り巻く国際政治経済情勢</li><li>・日本の国際関係と外交政策：その開発・発展へのインパクト</li><li>・日本の対外援助政策：その開発・発展へのインパクト</li><li>・戦後の日本経済と国際的発展</li><li>・戦後の日本政治：その開発・発展へのインパクト</li><li>・日本の安全保障政策：その開発・発展へのインパクト</li><li>・日本の財政と行政：その開発・発展へのインパクト</li><li>・日本の教育システム：その開発・発展へのインパクト</li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>・日本の産業発展とその背後のイノベーション</li><li>・日本の企業システムと日本型経営：その開発・発展へのインパクト</li><li>・日本の企業金融と金融システム：その開発・発展へのインパクト</li><li>・日本の雇用慣行と人的資本の蓄積</li><li>・日本のものづくり経営</li><li>・日本のビジネスリーダー：その開発・発展へのインパクト</li><li>・日本の中小企業：その開発・発展へのインパクト</li></ul>	
選択必修科目 - 基本専門科目 各分野から少なくとも2単位 計8単位以上			
政治学分野（GSIR 提供科目）	経済学分野（GSIR 提供科目）	経営学分野（GSIM 提供科目）	
<ul style="list-style-type: none"><li>・比較政治論</li><li>・現代国際安全保障論</li><li>・対外政策決定論</li><li>・国際人権論：文化、ジェンダー、平等</li><li>・公共組織経営</li><li>・行政学</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ミクロ経済学Ⅰ：価格理論</li><li>・マクロ経済学Ⅰ：所得理論</li><li>・費用便益分析</li><li>・開発政策とグローバル化</li><li>・基礎経済学</li><li>・国際経済論</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・財務会計学</li><li>・国際経営</li><li>・マーケティング・マネジメント</li><li>・オペレーションズ・マネジメント</li><li>・組織行動論</li><li>・経営戦略</li></ul>	
自由選択科目			
本学が提供する全ての授業科目（含語学科目）は JDP の指定必修科目を除き自由選択科目として履修することができます。 修了要件単位に含めることができる語学科目の単位数は上限4単位です。			
指定必修科目 - 特別演習 6 単位 注2)			
特別演習 I、Ⅱ、Ⅲ（論文・研究レポート指導）			
修了要件単位数 40 単位			

\* 1 単位の科目

上記履修区分毎の必要単位数を取得することに加え、所属研究科が提供する授業科目から合計 28 単位以上を取得することが求められます。

注 1 JDP 関連科目の必要単位数は修士論文を選択した場合（14 単位）と研究レポートを選択した場合（18 単位）で異なります。

注 2 特別演習 I、II、III は指定必修科目で 6 単位を取得することが求められますが、研究レポートを選択した場合は 6 単位中 2 単位のみが、修士論文を選択した場合は 6 単位全てが修了要件単位に含まれます。（JDP 関連科目の単位数＋特別演習科目の単位数＝20 単位）



IUJ の国際経営学研究科 (GSIM) は、社会的責任と社会的価値創出の意志を持ち、国際的なビジネス環境においてリーダーシップを発揮できる、聡明な職業人の育成を目指しています。GSIM は、英「エコノミスト」誌 MBA 世界ランキングにおいて、日本から唯一、世界トップ 100 校の中に幾度となくランクされ、2018 年には世界的なビジネススクールの認証機関である AACSB の認証も取得し、国際的に認められた国内トップレベルのビジネススクールです。

本プログラムでは、成長著しいアジア諸国や今後発展が期待されるアフリカなどの新興諸国の市場にどのように参入するか、また当該市場において如何にして成功を収めるかなど、国際的な競争優位性を獲得するための知識、スキル、そして経営理念を学ぶことができます。

本プログラムには常時 40 カ国前後の留学生在籍しており、日本国内のみならず、世界でも類を見ない文化的多様性を特色としています。近年のビジネス環境において求められている異文化コミュニケーション能力や、多国籍プロジェクトチームを牽引する能力などを身につけるには、最適な教育環境と言えるでしょう。また、各科目の授業ではケースメソッドを利用し、実務的な課題解決能力の養成に主眼をおいています。交渉技術・プレゼンテーション技術・リーダーシップ論に関する授業も開講されており、実践的なビジネススキルを身に付けることもできます。修了生は、本プログラムでの経験を通じて国際的に強固なネットワークを築き、所属する企業のグローバル展開推進にかかわる中核人材として、国内および海外企業から高い評価をいただいています。

## カリキュラム

1 年次において学生は、必修科目の履修を通じて、経営学の基礎を学びます。いずれの科目も、経営能力を養い、国際的なビジネス環境下においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目的としています。本プログラムの授業では、ケースメソッドが採用されており、欧米諸国のみでなく、アジア・中南米・アフリカ諸国のケースも取り上げています。これにより、先進的な経営事例から知見を得るとともに、発展途上国のマーケットや経営課題について考察する機会も設けています。また、グループワークを重視しており、授業外においても世界各地からの留学生と議論を積み重ねることで、異文化コミュニケーション能力を向上させ、異なる価値観を持つ者との議論を通じて新しい価値を生み出す能力、多国籍グループをまとめ上げるリーダーシップ能力を養成することができます。

1 年次の春学期から 2 年次にかけては、MBA 取得後のキャリアプランに即した専門分野を選択することができます。専門分野には「ファイナンス」、「マネジメント」、「マーケティング」、「IT/OM/SCM/PM/SE」※の 4 分野があり、2 つ以上の専門分野を選択することも可能です。また、選択した専門分野以外の選択科目も履修することができます。特定の分野に特化せず、様々な科目を履修したい方は、専門分野を選択する必要はありません。

MBA 関連科目の他、本学が指定する 3 つの基本専門分野（国際関係学研究科が指定する「政治学分野」及び「経済学分野」、国際経営学研究科が指定する「経営学分野」）に置かれる基本専門科目群から各分野少なくとも 2 単位、合計 8 単位以上を取得することが求められます。

## 課程修了・学位授与の条件

課程修了の要件は、修士課程に 2 年間に在籍し、合計 40 単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、学位論文または研究レポートを提出し、且つその審査に合格することです。修了要件単位の内訳は右記のとおりです。

課程修了時には修士（経営学）の学位が授与されます。

※ IT / オペレーションズ・マネジメント / サプライ・チェーン・マネジメント / プロジェクト・マネジメント / ソーシャル・エンタープライズ

## MBA プログラム（2 年制）

### ■ 修士（経営学）

指定必修科目 - 基礎科目 15 単位		
<ul style="list-style-type: none"> <li>応用統計学</li> <li>企業財務</li> <li>企業の社会的責任 (CSR) 論*</li> <li>財務会計学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際経営</li> <li>マーケティング・マネジメント</li> <li>組織行動論</li> <li>経営戦略</li> </ul>	
選択必修科目 - 9 単位以上または 13 単位以上 注 1)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>応用企業財務</li> <li>経営史概論</li> <li>日本のビジネスリーダー：その開発・発展へのインパクト</li> <li>ビジネス・プレゼンテーション</li> <li>中国経営論*</li> <li>新興市場戦略論</li> <li>消費者行動・消費者心理</li> <li>企業戦略論</li> <li>異文化コミュニケーション論</li> <li>顧客関係管理 (CRM)</li> <li>データ分析と人工知能</li> <li>負債ファイナンスと債券市場</li> <li>デリバティブズ</li> <li>日本の産業発展とその背後のイノベーション</li> <li>デジタル・ビジネス・モデル</li> <li>デジタル・ビジネス・トランスフォーメーション</li> <li>起業財務*</li> <li>環境政策と災害管理</li> <li>基礎経済学</li> <li>財務諸表と経営分析</li> <li>グローバル戦略マーケティング</li> <li>人的資源管理とタレント・マネジメント</li> <li>情報政策管理</li> <li>イノベーションと新事業創出</li> <li>国際金融論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際税務</li> <li>E ガバメント</li> <li>経営科学</li> <li>IT 戦略と政策立案</li> <li>日本の企業金融と金融システム：その開発・発展へのインパクト</li> <li>日本の企業システムと日本型経営：その開発・発展へのインパクト</li> <li>日本の雇用慣行と人的資本の蓄積</li> <li>リーダーシップ*</li> <li>リーダーシップ・ブートキャンプ*</li> <li>マクロ経済学 I：所得理論</li> <li>管理会計学</li> <li>マーケティング・インテリジェンス</li> <li>マーケティング・リサーチ</li> <li>日本のものづくり経営</li> <li>交渉戦略*</li> <li>オペレーションズ・マネジメント</li> <li>ポートフォリオ・マネジメント</li> <li>応用財務会計学*</li> <li>プロジェクト・ファイナンス*</li> <li>製品開発におけるプロジェクト・マネジメント</li> <li>リスク・マネジメント</li> <li>サービス・マネジメント</li> <li>日本の中小企業：その開発・発展へのインパクト</li> <li>戦略的ブランド・マネジメント</li> <li>戦略シミュレーション*</li> <li>サプライ・チェーン・マネジメント</li> </ul>	
選択必修科目 - 基本専門科目 各分野から少なくとも 2 単位 計 8 単位以上		
政治学分野 (GSIR 提供科目)	経済学分野 (GSIR 提供科目)	経営学分野 (GSIM 提供科目)
<ul style="list-style-type: none"> <li>比較政治社会論</li> <li>現代国際安全保障論</li> <li>対外政策決定論</li> <li>国際人権論：文化、ジェンダー、平等</li> <li>公共組織経営</li> <li>行政学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミクロ経済学 I：価格理論</li> <li>マクロ経済学 I：所得理論</li> <li>費用便益分析</li> <li>開発政策とグローバル化</li> <li>基礎経済学</li> <li>国際経済論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>財務会計学</li> <li>国際経営</li> <li>マーケティング・マネジメント</li> <li>オペレーションズ・マネジメント</li> <li>組織行動論</li> <li>経営戦略</li> </ul>
自由選択科目		
<p>本学が提供する全ての授業科目（含語学科目）は MBA の指定必修科目を除き自由選択科目として履修することができます。</p> <p>修了要件単位に含めることができる語学科目の単位数は上限 4 単位です。</p>		
指定必修科目 - 特別演習 6 単位 注 2)		
特別演習 I、II、III（論文・研究レポート指導）		
修了要件単位数 40 単位		

\* 1 単位の科目

上記履修区分毎の必要単位数を取得することに加え、所属研究科が提供する授業科目から合計 30 単位以上を取得することが求められます。

注 1 選択必修科目の必要単位数は修士論文を選択した場合（9 単位）と研究レポートを選択した場合（13 単位）で異なります。

注 2 特別演習 I、II、III は指定必修科目で 6 単位を取得することが求められますが、研究レポートを選択した場合は 6 単位中 2 単位のみが、修士論文を選択した場合は 6 単位全てが修了要件単位に含まれます。



急成長する新興国・発展途上国の市場、統合化が加速する世界経済など、今日の国際競争では急激に事業環境が変化してきています。このような転換点にある国際競争を勝ち抜くためには、全般管理（ジェネラル・マネジメント）の見識を持った人材を育成することが急務です。具体的には、研究開発、オペレーション、マーケティングなど事業の個別、機能部門について理解するとともに、常に全体像を見据えながら事業を牽引・変革する能力を兼ね備えることが必要です。企業にとっては、そうした人材を経営トップのみならず、事業の要所要所に適切に配置することが重要となります。

MBA 1年制プログラム (IMBA) はこのようなグローバル経営人材の育成を目指します。

これまで本学が1年制修士プログラムとして提供してきたEビジネス経営学プログラムは、2019年度よりIMBAに統合され、IMBAの中に**Eビジネス経営集中コース (E-biz)**を新たに設置することになりました。E-bizは、ジェネラル・マネジメントの見識を持ち、かつ目覚ましく発展する情報技術に関する知見を持ち、進展する情報環境下で幅広く活躍できる人材を育成することを目的としており、IMBAの必修科目を履修し、将来のキャリアに不可欠な経営知識や技術を身につけると同時に、ITの専門科目についても履修して頂く内容となっています。

## カリキュラム

IMBAは、キャリア向上やスキルアップを目指し、1年間という短期間でMBAを取得する集中プログラムです。2年制のMBAプログラムと同様に企業のケースを主体としており、アジア・中南米・アフリカのケースも多数使用しています。多くの授業でグループワークが取り入れられており、世界各地からの留学生とともにグループで学習することにより、異文化コミュニケーション能力や多国籍チームにおけるリーダーシップ能力が培われます。

IMBAは、グローバル経営人材を育成することを目的として、実務経験5年以上の方を対象に設計されています。既に相当程度の専門知識を有することを前提としているため、2年制MBAのようにマネジメントやマーケティングなど専門分野の選択はありませんが、ジェネラル・マネージャーとしてのキャリアゴールに合わせて、専門科目を履修することができます。

## キャップストーン科目

IMBA独自のキャップストーン科目は、プログラムの集大成として、最終学期にあたる夏季期間に開講される必修科目で、インターナショナル・キャリア開発、リーダーシップ・ブートキャンプ、戦略シミュレーションの3科目（各1単位、計3単位）が提供されます。キャップストーン科目では、科目の履修をとおしてそれまでに獲得した知識・理論を活用し、経営課題の解決策について議論します。

## 課程修了・学位授与の条件

課程修了の要件は、修士課程に1年間在籍し、合計32単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、学位論文または研究レポートを提出し、且つその審査に合格することです。修了要件単位の内訳は右記のとおりです。

課程修了時には修士（経営学）の学位が授与されます。

## MBA 1年制プログラム

### ■ 修士（経営学）

指定必修科目 - 基礎科目 13 単位	
<ul style="list-style-type: none"> <li>企業財務</li> <li>企業の社会的責任 (CSR) 論 *</li> <li>財務会計学</li> <li>国際経営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マーケティング・マネジメント</li> <li>組織行動論</li> <li>経営戦略</li> </ul>
指定必修科目 - キャップストーン科目 3 単位	
<ul style="list-style-type: none"> <li>インターナショナル・キャリア開発 *</li> <li>リーダーシップ・ブートキャンプ *</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦略シミュレーション *</li> </ul>
選択必修科目 - MBA 共通科目 8 単位以上または 12 単位以上 (注1)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>応用企業財務</li> <li>応用統計学</li> <li>経営史概論</li> <li>日本のビジネスリーダー：その開発・発展へのインパクト</li> <li>ビジネス・プレゼンテーション</li> <li>中国経営論 *</li> <li>新興市場戦略論</li> <li>消費者行動・消費者心理</li> <li>企業戦略論</li> <li>異文化コミュニケーション論</li> <li>顧客関係管理 (CRM)</li> <li>負債ファイナンスと債券市場</li> <li>デリバティブズ</li> <li>日本の産業発展とその背後のイノベーション</li> <li>起業財務 *</li> <li>環境政策と災害管理</li> <li>基礎経済学</li> <li>財務諸表と経営分析</li> <li>グローバル戦略マーケティング</li> <li>人的資源管理とタレント・マネジメント</li> <li>イノベーションと新事業創出</li> <li>国際金融論</li> <li>国際税務</li> <li>日本の企業金融と金融システム：その開発・発展へのインパクト</li> <li>日本の企業システムと日本型経営：その開発・発展へのインパクト</li> <li>日本の雇用慣行と人的資本の蓄積</li> <li>リーダーシップ *</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マクロ経済学 I：所得理論</li> <li>管理会計学</li> <li>マーケティング・リサーチ</li> <li>日本のものづくり経営</li> <li>交渉戦略 *</li> <li>オペレーションズ・マネジメント</li> <li>ポートフォリオ・マネジメント</li> <li>応用財務会計学 *</li> <li>プロジェクト・ファイナンス *</li> <li>製品開発におけるプロジェクト・マネジメント</li> <li>リスク・マネジメント</li> <li>サービス・マネジメント</li> <li>日本の中小企業：その開発・発展へのインパクト</li> <li>戦略的ブランド・マネジメント</li> <li>サプライ・チェーン・マネジメント</li> </ul>
選択必修科目 - E-biz 科目 E-biz の学生は 8 科目の中から 8 単位以上 (注2)	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ分析と人工知能</li> <li>デジタル・ビジネス・モデル</li> <li>デジタル・ビジネス・トランスフォーメーション</li> <li>情報政策管理</li> <li>E ガバメント</li> <li>経営科学</li> <li>IT 戦略と政策立案</li> <li>マーケティング・インテリジェンス</li> </ul>
自由選択科目	
<p>本学が提供する全ての授業科目（語学科目及び IMBA の指定必修科目を除く）は自由選択科目として履修することができます。</p>	
指定必修科目 - 特別演習 6 単位 (注3)	
特別演習 I、II、III（論文 / 研究レポート指導）	
修了要件単位数 32 単位	

\* 1 単位の科目

上記履修区分毎の必要単位数を取得することに加え、所属研究科が提供する授業科目から合計 30 単位以上を取得することが求められます。

注1 選択必修科目の必要単位数は修士論文を選択した場合（8 単位）と研究レポートを選択した場合（12 単位）で異なります。選択必修科目（IMBA 共通科目）または選択必修科目（E-biz 科目）の中から自由に科目を選択できます。

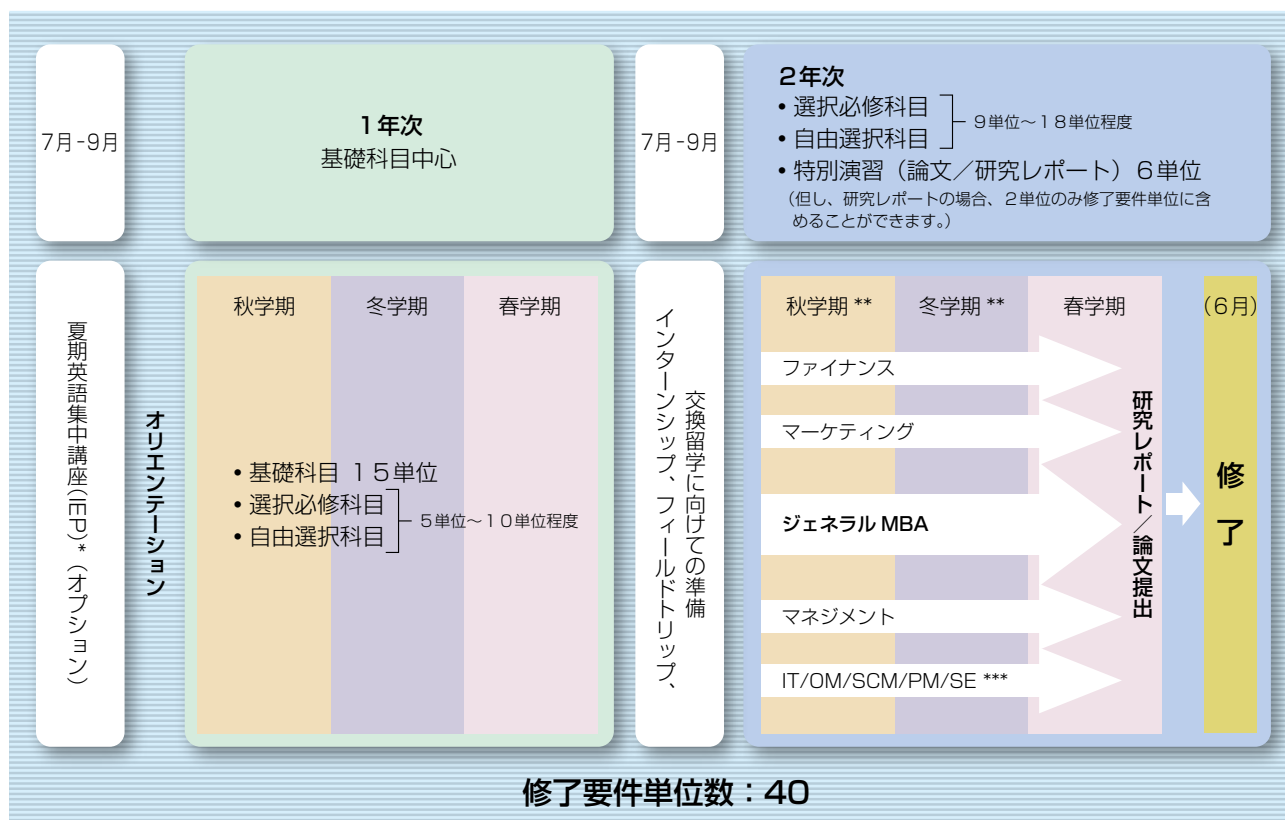
注2 E-biz の場合、修士論文を選択した場合は選択必修科目（E-biz 科目）の 8 科目から 8 単位を、研究レポートを選択した場合は 12 単位（内 4 単位は選択必修科目（IMBA 共通科目）からの履修も可）を取得することが求められます。

注3 特別演習 I、II、III は指定必修科目で 6 単位を取得することが求められますが、研究レポートを選択した場合は 6 単位中 2 単位のみが、修士論文を選択した場合は 6 単位全てが修了要件単位に含まれます。



# MBA and IMBA

## MBA プログラム（2年制）

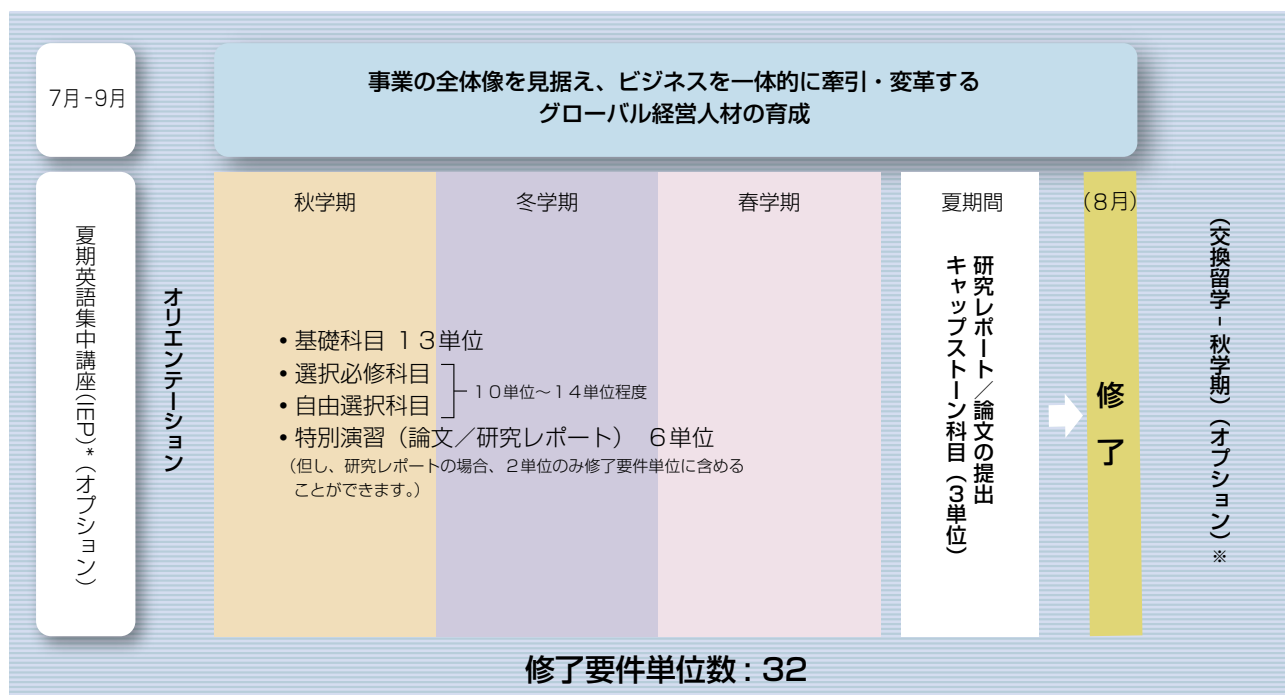


\* 入学前に自身の英語スキルを磨きたい方のためのプログラムです。

\*\* 秋学期または冬学期に、交換留学プログラムに参加することができます。

\*\*\* IT / オペレーションズ・マネジメント/ サプライ・チェーン・マネジメント/ プロジェクト・マネジメント/ ソーシャル・エンタープライズ

## IMBA プログラム（1年制）



※ すべての修了要件を満たした IMBA の学生は、オプションとして、交換留学プログラムに参加することが可能です。

その場合、修了日は 12 月 31 日に延期となり、追加授業料（秋学期分）を納めていただきます。



# GSIR 国際関係学研究科 交換留学提携校



## 北米 (3校)

- カナダ ① カールトン大学ノーマン・バターンソン国際関係学大学院  
アメリカ合衆国 ② ジョーンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院 ※  
③ ニューヨーク大学スターン経営大学院 ※

## 欧州 (2校)

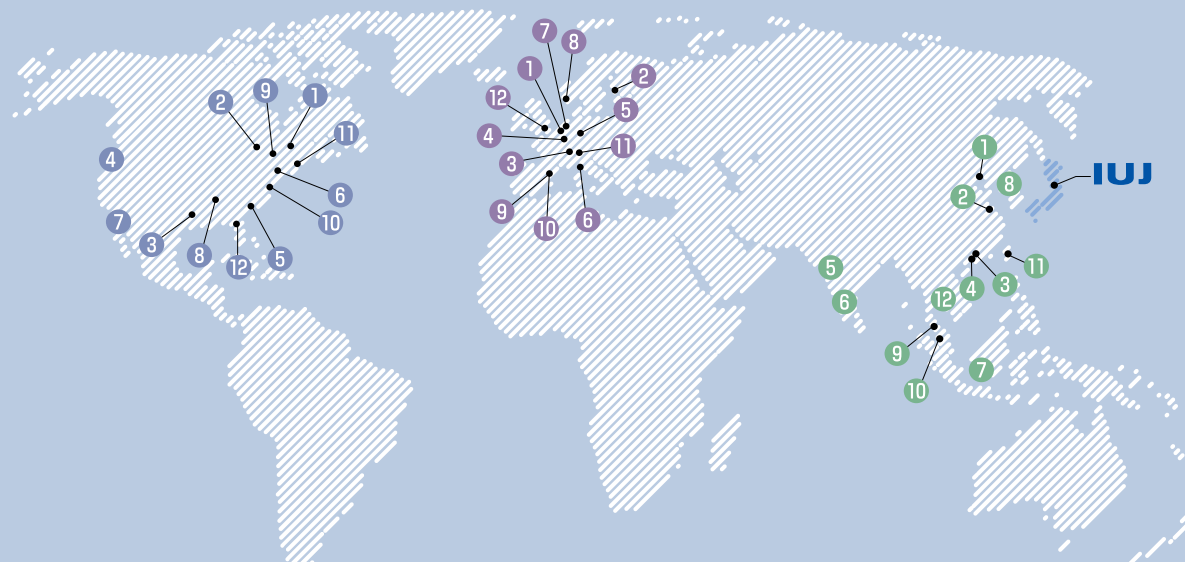
- チェコ ① プラハカレル大学社会科学研究所  
イタリア ② ボッコーニ大学

## アジア (5校)

- 中国 ① 対外経済貿易大学国際経済貿易学院  
韓国 ② ソウル国立大学国際大学院  
③ 延世大学国際大学院  
タイ ④ タマサート大学  
台湾 ⑤ 国立政治大学・社会科学学院

※ 現在学生の派遣をしていません。

# GSIM 国際経営学研究科 交換留学提携校



## 北米 (12校)

- カナダ ① コンコルディア大学ジョン・モルソン経営大学院  
② ヨーク大学シュールリック経営大学院  
アメリカ合衆国 ③ サザン・メソジスト大学コックス経営大学院 ※  
④ ワシントン大学フォスター経営大学院 ※  
⑤ ノースカロライナ大学ケナン・フラグラー経営大学院  
⑥ レンセラー工科大学ラリー経営大学院 ※  
⑦ 南カリフォルニア大学マーシャル経営大学院 ※  
⑧ ヴァンダービルト大学オーエン経営大学院  
⑨ ロチェスター大学サイモン経営大学院  
⑩ ニューヨーク大学スターン経営大学院 ※  
⑪ ダートマス大学タック経営大学院  
⑫ フロリダ大学ウォリントン経営大学院

## 欧州 (12校)

- ベルギー ① アントワープ大学経営大学院 ※  
フィンランド ② オルト大学  
フランス ③ EMリヨンビジネススクール  
④ NEOMAビジネススクール  
ドイツ ⑤ WHUオットー・バイスハイム経営大学  
イタリア ⑥ SDAボッコーニ経営大学院  
オランダ ⑦ エラスムス大学ロッテルダム経営大学院  
ノルウェー ⑧ ノルウェー経済大学  
スペイン ⑨ ESADEビジネススクール  
⑩ IESEビジネススクール  
スイス ⑪ セントギャレン大学  
英国 ⑫ ウォリック大学ビジネススクール ※

## アジア (12校)

- 中国 ① 中国人民大学商学院  
② 復旦大学経済学院 ※  
香港 ③ 香港中文大学商学院  
④ 香港科技大学商学院  
インド ⑤ インド経営大学院アーメダバド校  
⑥ インド経営大学院バンガロール校  
インドネシア ⑦ ガジャマダ大学経営修士プログラム  
韓国 ⑧ 延世大学国際大学院  
マレーシア ⑨ マレーシア国際イスラーム大学  
経済経営科学研究科  
シンガポール ⑩ シンガポール国立大学ビジネススクール  
台湾 ⑪ 国立政治大学商学院  
タイ ⑫ チュラロンコン大学サシン経営大学院

※ 現在学生の派遣をしていません。



グローバル人材の育成が強く求められる中、より高度なレベルにおいて国際社会の要請に応えるため、国際関係学研究科では、2015年9月に博士後期課程を開設いたしました。国際機関・公的機関、諸外国政府、研究機関等の行政官や専門職員、そして将来世界で活躍したいと考えている方を対象に、研究者養成のみならず国際舞台で活躍できる、そして実務での経験のみならず学術的理論と技能を有した高度専門的職業人を養成していきます。

博士後期課程では、既存の国際関係学研究科修士課程の「国際開発学プログラム」、「公共経営・政策分析プログラム」、「国際関係学プログラム」の専門性を更に深化させた次の三つのクラスターからなる教育研究体制を構築しています。

- ・経済学クラスター 【授与学位：博士（経済学）】
- ・公共経営学クラスター 【授与学位：博士（公共経営学）】
- ・国際関係学クラスター 【授与学位：博士（国際関係学）】

博士後期課程では、時代の潮流を見通す長期的なビジョンと多様な価値観を認識・理解できるグローバルな視野を有し、かつ国際社会が抱える広範囲で多様な課題に対して自立して研究活動を行い、また高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を備えた人材を養成することを目的としています。

#### ・経済学クラスター

数理・統計的分析手法を包含した経済学の高度な研究能力及び専門的な学識を有する研究者又は、そのような研究能力と学識を有し国際機関や行政機関その他の組織体において経済開発・経済政策に関連した業務に従事する高度専門的職業人を育成します。

#### ・公共経営学クラスター

公共経営学の高度な研究能力及び専門的な学識を有する研究者又は、そのような研究能力と学識を有し国際機関や行政機関で効率的な経営管理などの業務に従事する高度専門的職業人を育成します。

#### ・国際関係学クラスター

安全保障など複雑性を増している国際関係学の高度な研究能力及び専門的な学識を有する研究者又は、そのような研究能力と学識を有し国際機関や行政機関で外交や安全保障政策の立案・執行などの業務に従事する高度専門的職業人を育成します。

## 課程修了・学位授与の要件

修了要件は、博士後期課程に3年間在籍し、必要な研究指導を受けた上、次の要件を満たすこととする。

- ◎以下の共通選択必修科目より各クラスター3科目（6単位）を含む4科目（8単位）を履修し合格すること。

### 共通選択必修科目

#### ・経済学クラスター

ミクロ経済学特論、マクロ経済学特論、計量経済学特論Ⅰ  
経済学クラスターの学生は計量経済学特論Ⅰに加えて計量経済学特論Ⅱの履修を強く推奨します。

#### ・公共経営学クラスター

公共経営学特論、公共政策プロセス特論、公共政策モデリング特論

#### ・国際関係学クラスター

国際政治学特論、国際政治経済学特論、人権とグローバル・ジャスティス特論

- ◎博士論文特別演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（各3単位、計9単位）を履修し合格すること。

- ◎博士後期課程1年次終了時に行われる博士候補認定試験において合格すること。不合格の場合は、再度翌年受験ができる。

- ◎研究論文1編以上が査読付学術誌において掲載が受理された上で博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。

## 教育課程・授業科目の概要

「共通選択必修科目」及び「博士論文特別演習（研究指導科目）」の区分により編成される。共通選択必修科目は、博士の学位にふさわしい高度な専門知識と学識の修得及び研究遂行能力の醸成を目的とする。博士論文特別演習は、博士論文執筆のための指導を目的とする。

## 共通選択必修科目

### ●経済学クラスター

ミクロ経済学特論（1年次冬）  
マクロ経済学特論（1年次秋）  
計量経済学特論Ⅰ（1年次冬）  
計量経済学特論Ⅱ（1年次春）

### ●公共経営学クラスター

公共経営学特論（1年次秋）  
公共政策プロセス特論（1年次冬）  
公共政策モデリング特論（1年次春）

### ●国際関係学クラスター

国際政治学特論（1年次秋）  
国際政治経済学特論（1年次冬）  
人権とグローバル・ジャスティス特論（1年次春）

### 博士論文特別演習（研究指導科目）

経済学、公共経営学もしくは国際関係学に関して、研究の  
実践・指導を行い、博士論文指導を行う。

博士論文特別演習Ⅰ（1年次通年）  
博士論文特別演習Ⅱ（2年次通年）  
博士論文特別演習Ⅲ（3年次通年）

## 博士後期課程における研究指導のスケジュール

	秋学期 9月～12月	冬学期 1月～3月	春学期 4月～6月	（夏期） 7月～8月
1年次	<input type="checkbox"/> 授業科目履修 共通選択必修科目:各学期1 - 2科目、1年次計4科目（8単位） <input checked="" type="checkbox"/> 論文指導委員会構成 （指導教員1名と副指導員2名） <input checked="" type="checkbox"/> 研究指導			<input checked="" type="checkbox"/> 研究遂行 <input checked="" type="checkbox"/> 研究計画書の提出 <input checked="" type="checkbox"/> 博士候補認定試験 <input checked="" type="checkbox"/> 研究計画審査（公開審査）
2年次	<input type="checkbox"/> 授業科目履修 （研究上の必要に応じ選択、 含む修士課程科目） <input checked="" type="checkbox"/> 研究遂行 <input checked="" type="checkbox"/> 研究指導	<input type="checkbox"/> 授業科目履修 （研究上の必要に応じ選択、 含む修士課程科目） <input checked="" type="checkbox"/> 研究遂行 <input checked="" type="checkbox"/> 中間発表（公開） ・研究論文の報告発表及び 学術誌への提出・投稿状 況の確認・議論	<input type="checkbox"/> 授業科目履修 （研究上の必要に応じ選択、 含む修士課程科目） <input checked="" type="checkbox"/> 研究遂行	<input checked="" type="checkbox"/> 論文執筆・投稿 <input checked="" type="checkbox"/> 研究論文学術誌受理 <input checked="" type="checkbox"/> 学位論文提出 <input checked="" type="checkbox"/> 学位論文審査・最終試験（公開）
3年次	<input checked="" type="checkbox"/> 論文執筆・投稿 <input checked="" type="checkbox"/> 論文指導委員会の決定 （論文指導委員会+学外教員1名 計4名） <input checked="" type="checkbox"/> 研究指導			<input checked="" type="checkbox"/> 学位授与

## 博士後期課程担当教員

2018年9月1日現在  
（アルファベット順）

### ●経済学クラスター

特任教授 渡辺 慎一（PhD、ミネソタ大学）  
准教授 後藤 英明（PhD、コーネル大学）  
准教授 伊藤 晴祥（PhD、ハワイ大学、博士、慶應義塾大学）  
准教授 陣内 悠介（PhD、ロチェスター大学）  
准教授 クオ チュンフン（PhD、ノースカロライナ州立大学）  
准教授 リン チンヤン（PhD、ウイスコンシン大学マジンソン校）  
講師 タン チェン ダウ（PhD、ニューサウスウェールズ大学）

### ●公共経営学クラスター

准教授 パーク フン ミョン（PhD、インディアナ大学ブルーミントン校）  
講師 チャン ヨンジン（PhD、アメリカン大学）  
講師 リム スンフ（PhD、フロリダ州立大学）  
講師 篠原 舟吾（PhD、ラトガース大学）

### ●国際関係学クラスター

教授 クーレイ ナーワラゲ（博士、名古屋大学）  
教授 ミョー マウンアウン（PhD、オーストラリア国立大学）  
教授 中村 治（博士、創価大学）  
教授 信田 智人（PhD、ジョンスホプキンス大学）  
准教授 熊谷 奈緒子（PhD、ニューヨーク市立大学）  
准教授 佐治 幹英（PhD、シカゴ大学）  
講師 マチケナイテ ヴィダ（博士、慶應義塾大学）



**有吉 章**

特任教授

オックスフォード大学 (英国) 経済学博士号 (1981)

**担当科目**: 国際金融論、金融市場と金融規制**研究テーマ**: International Monetary System, International Capital Flows, Risk Assessment and Management**チャン ヨンジン (Chang, Yongjin)**

准教授 ※博士後期課程担当教員

アメリカン大学 行政学博士号 (2008)

**担当科目**: 公共組織経営、公共セクターの人的資源管理論**研究テーマ**: Public Human Resource Management, Public Integrity,

Ethics, and Corruption, Whistleblower Protection, Comparative Public Administration, Quality of Government &amp; Public Trust

**クーレイ ナーワラゲ S (Cooray, S. Nawalage)**

教授 ※博士後期課程担当教員

名古屋大学 経済学博士号 (1996)

**担当科目**: 基礎経済学、国際政治経済: 比較的アプローチ、貧困と不平等の経済学: モデルと予測**研究テーマ**: Sustainable Development Issues, Macroeconomics, Econometric Modeling and Forecasting, Growth and Development**後藤 英明**

教授 ※博士後期課程担当教員

コーネル大学 (米国) 応用経済学博士号 (2009)

**担当科目**: ミクロ経済学 I: 価格理論、開発経済学、制度・戦略的行動と経済発展**研究テーマ**: Microeconomics, Development Economics, Socioeconomics**陣内 悠介**

准教授 ※博士後期課程担当教員

ロチェスター大学 (米国) 経済学博士号 (2013)

**担当科目**: 統計学、日本の教育システム: その開発・発展へのインパクト、政策評価論、グローバルマーケットセミナー**研究テーマ**: Labor Economics, Economics of Education, Health Economics, Applied Econometrics**ケーン ロバート F (Kane, Robert F.)**

講師

ノースカロライナ州立大学 (米国) 経済学博士号 (2013)

**担当科目**: 経済経営数学、国際貿易論、開発政策とグローバル化**研究テーマ**: International Trade, International Economics, Economic Growth, Development Economics**熊谷 奈緒子**

准教授 ※博士後期課程担当教員

ニューヨーク市立大学 (米国) 政治学博士号 (2009)

**担当科目**: 国際機構論、国際政治学、国際紛争処理と平和構築、日本の国際関係と外交政策: その開発・発展へのインパクト**研究テーマ**: International Security, War Responsibility, Disarmament, Humanitarianism, State Sovereignty, Transnational Civil Society**クオ チュンフン (Kuo, Chun-Hung)**

准教授 ※博士後期課程担当教員

ノースカロライナ州立大学 (米国) 経済学博士号 (2012)

**担当科目**: マクロ経済学 I: 所得理論、上級マクロ経済学: 政策分析、時系列分析**研究テーマ**: Macro-econometrics, Fiscal Policy, Monetary Economics, Labor Economics, Computational Economics**リム スンフ (Lim, Seunghoo)**

准教授 ※博士後期課程担当教員

フロリダ州立大学 (米国) 行政学博士号 (2015)

**担当科目**: 公共政策プロセス、環境政策と災害管理、協働・参加型ガバナンス**研究テーマ**: Theories of the Policy Process, Participatory Governance, Policy Networks, and Social Network Analysis, Risk Policy, Disaster Management, and Health Policy, Public Budgeting and Financial Management**リン チンヤン (Lin, Ching-Yang)**

准教授 ※博士後期課程担当教員

ウィスコンシン大学マディソン校 (米国) 経済学博士号 (2010)

**担当科目**: 金融経済論と政策分析、マクロ経済学 II: 景気循環と成長理論、開発途上国の金融政策**研究テーマ**: Macro Economics, Monetary Economics, Labor Economics, Financial Economics**マチケナイテ ヴィダ (Macikenaite, Vida)**

講師 ※博士後期課程担当教員

慶應義塾大学 政策・メディア博士号 (2015)

**担当科目**: 比較政治論、中国外交論、アジア国際関係 II**研究テーマ**: Contemporary China Studies, State-business Relations, Authoritarian Regimes, Comparative Politics, Foreign Policy Decision Making, International Relations**ミョー マウン アウン (Myoe, Maung Aung)**

教授 ※博士後期課程担当教員

オーストラリア国立大学 政治学・国際関係学博士号 (2000)

**担当科目**: 対外政策決定論、グローバル・イシュー、外交と国家、東南アジアにおける国際関係、安全保障と戦略: 国家と国際関係からの視点**研究テーマ**: Civil-Military Relations, Foreign Policy Analysis, Security and Strategy, Myanmar Politics and Foreign Relations**中村 治**

教授 ※博士後期課程担当教員

創価大学大学院 経済学博士号 (2012)

**担当科目**: 現代日本経済論、戦後の日本経済と国際的発展、国際経済論、日本の財政と行政: その開発・発展へのインパクト**研究テーマ**: Determinants of Growth of Developing Countries, Income Distribution and Economic Growth, International Trade, Investment and Economic Growth**パーク フン ミョン (Park, Hun Myoung)**

准教授 ※博士後期課程担当教員

インディアナ大学ブルーミントン校 (米国) 公共政策学博士号 (2007)

**担当科目**: 政策分析入門、情報政策管理、E- ガバメント、公共経営情報システム、政策モデリング入門**研究テーマ**: Policy Analysis, Information Systems and Technology, Public and Nonprofit Management, Statistical and Econometric Methods**佐治 幹英**

教授 ※博士後期課程担当教員

シカゴ大学大学院 (米国) 政治学博士号 (2006)

**担当科目**: 国際人権論: 文化・ジェンダー・平等、国際市民社会論: 市民と民主主義、現代日本における社会問題: モダンとポストモダン**研究テーマ**: Political Philosophy; Kant**信田 智人**

教授 ※博士後期課程担当教員

ジョンス・ホプキンス大学 (米国) 国際関係学博士号 (1994)

**担当科目**: 国際関係史、アメリカ対外政策論、戦後の日本政治: その開発・発展へのインパクト、日本を取り巻く国際政治経済情勢**研究テーマ**: Japanese Politics, Japanese Foreign Policy, US-Japan Relations**篠原 舟吾**

講師 ※博士後期課程担当教員

ラトガース大学 (米国) 行政学博士号 (2016)

**担当科目**: 公的予算と財務、リサーチ方法論、資本予算と債務管理**研究テーマ**: Local Government Finance, Public Personnel Management, Healthcare Finance, Nonprofit Funding, Capital Budgeting, History of Public Administration, Experimental Methods**タン チェン ダウ (Tang, Cheng-Tao)**

講師 ※博士後期課程担当教員

ニューサウスウェールズ大学 (豪国) 経済学博士号 (2016)

**担当科目**: ミクロ経済学 II: 戦略的行動と情報分析、費用便益分析、産業組織論と政策分析**研究テーマ**: Labor Economics, Organizational Economics, Industrial Organization**渡辺 慎一**

特任教授 ※博士後期課程担当教員

ミネソタ大学大学院 (米国) 経済学博士号 (1983)

**担当科目**: 人間の安全保障 II、環境・持続可能な開発と人間の安全保障、移民と人間の安全保障**研究テーマ**: Evolution of Institutions, Global Governance of Flows of People and Funds, Sustainable Development**ワン チュン イー (ジェニー) (Wong, Chun Yee (Jenny))**

講師

ニューサウスウェールズ大学 (豪国) 経済学博士号 (2013)

**担当科目**: 計量経済学 I、クロスセクション・パネルデータ分析、環境医療経済学**研究テーマ**: Health Economics, Education Economics, Policy Evaluation**山口 昇**

研究科長、教授

フレッチャー法律外交大学院 修士号 (1988)

**担当科目**: 現代国際安全保障論、日本の安全保障政策: その開発・発展へのインパクト**研究テーマ**: 国際政治、日米同盟、非伝統的安全保障協力、軍事史及び軍事戦略

## 特別招聘教授

**林 秀毅**

日本経済研究センター研究本部特任研究員

**鈴木 基義**

ラオス計画投資省上級顧問

## 客員教授

**有馬 純**

東京大学公共政策大学院 教授

**担当科目**: エネルギー政策**駒野 欽一**

アフガニスタン大使 (2002-2004)、エチオピア大使 (2006-2010)、

イラン大使 (2010-2012)

**担当科目**: 外交概論 II、地域政治特殊研究 I**小澤 俊朗**

元在ウィーン国際機関政府

**担当科目**: 外交概論 I

**アーメッド モハメッド (Ahmed, Mohammed)**

特任教授

デラウェア大学 言語博士号 (1988)

**担当科目:** 異文化コミュニケーション論、ビジネス・プレゼンテーション**アウン ザウ ザウ (Aung, Zaw Zaw)**

講師

長岡技術科学大学 博士号 (2010)

**担当科目:** デジタル・ビジネス・モデル、デジタル・ビジネス・トランスフォーメーション、データベースデザインと経営戦略、ビジネスのためのモバイルアプリケーション**研究テーマ:** Critical Infrastructure Protection & Management, Risk & Business Continuity Management, Managing Social Networking Services for Enterprises**コマイ アレッサンドロ (Comai, Alessandro)**

准教授

ラモン・リュイ大学 (ESADE ビジネススクール) 博士号 (2016)

**担当科目:** マーケティング・マネジメント、マーケティング・インテリジェンス、マーケティング・リサーチ、グローバル戦略マーケティング**研究テーマ:** Marketing Intelligence, Technology Intelligence, Text data Visualization, Patent analytics, Open Innovation, Marketing Innovation**平木 多賀人**

特任教授

アリゾナ大学 (米国) 博士号 (1983)

**担当科目:** 負債ファイナンスと債券市場、企業財務、ポートフォリオ・マネジメント**廣瀬 紳一**

教授

慶應義塾大学 経営管理研究科 博士号 (2012)

**担当科目:** 組織行動論、サービス・マネジメント、人的資源管理とタレント・マネジメント**研究テーマ:** Human Resource Assessment and Development Procedures/Methods, Global Talent Management, Management and Development of Impression Skills**伊藤 晴祥**

准教授 ※博士後期課程担当教員

ハワイ大学シャイドラ経営大学院 (米国) 博士号 (2012)

慶應義塾大学 博士号 (2012)

**担当科目:** リスク・マネジメント、起業財務、デリバティブズ、応用企業財務、日本の企業金融と日本の金融システム: その開発・発展へのインパクト**研究テーマ:** Corporate Finance, Corporate Governance, Corporate Restructuring,

Risk Management and Insurance, Real Options

**リー ヒョンクー (Lee, Hyunkoo)**

教授

カーネギーメロン大学 (米国) 博士号 (1998)

**担当科目:** 財務会計学、応用財務会計学、財務諸表と経営分析、管理会計学、日本の企業システムと日本型経営: その開発・発展へのインパクト**研究テーマ:** Compensation Structure and Management Incentives, Corporate Governance and Management Behaviors**リー ウェンカイ (Li, Wenkai)**

研究科長、教授

香港科技大学 (香港) 博士号 (2004)

**担当科目:** サプライ・チェーン・マネジメント、オペレーションズ・マネジメント、製品開発におけるプロジェクトマネジメント、応用統計学**研究テーマ:** Supply Chain Management, Operations Management and its Applications in Businesses, Life Cycle Assessment**若山 俊弘**

特任教授

シラキュース大学 (米国) 博士号 (1989)

**担当科目:** 経営戦略、イノベーションと新事業創出**研究テーマ:** Global Strategies for Emerging Asia, Irreducibility of Strategy through System-theoretic Perspectives, Innovation and New Business Creation in the Context of Established Organizations.**横瀬 勉**

教授

慶應義塾大学 MBA (1994)

**Courses:** 日本の雇用慣行と人的資本の蓄積、リーダーシップ・ブートキャンプ、交渉戦略、リーダーシップ、組織行動論**ザンザン インイン (Zhang Zhang, Yingying)**

准教授

ラモン・リュイ大学 (ESADE ビジネススクール) 博士号 (経営科学) (2008)

**担当科目:** 国際経営、新興市場戦略論、企業戦略論、中国経営論**研究テーマ:** International strategic human resource management: The intersection of people management, international business, and strategic innovation, with regional speciality in China and other emerging market such as Latin American context

## 特別招聘教授

**デンスコム ナイジェル (Denscombe, Nigel)**

デンスコムコーポレーション代表

**大江 建**

大江事務所代表

**杉山 浩一**

杉山マネジメント開発代表取締役社長

## 客員教授

**ラジャセケラ ジェイ (Rajasekera, Jay)**

東京国際大学 副学長・教授

ノースカロライナ州立大学 (米国) 博士号 (1984)

**担当科目:** コンピュータ支援の意思決定モデリング、IT 戦略と政策立案



## 英語プログラム

学内公用語でもある英語能力を高めるために、入学前に夏期英語集中講座 (IEP)、1 年次にアカデミック・イングリッシュ、アカデミック・ライティング等の授業を行い、すべての職業人に必要不可欠なツールとしての英語が身につくようサポートしています。

### Academic English

Academic English は 1 年次の学生を対象とした科目で大学院での学業を遂行するために、アカデミック・ライティングに必要な基礎を学びます。また English for Thesis Writing では 2 年次の学生が修士論文を書くトレーニングをします。

### 夏期英語集中講座 (IEP)

夏期英語集中講座 (Intensive English Program : IEP) は、大学院レベルの教育・研究を英語で効果的に進めることができるよう、英語を母語としない学部卒業生、社会人を対象とした、実用的で正確な英語能力の習得を目的とする合宿型プログラムです。毎年 7 月上旬より 8 週間開講しています。

本講座は本学入学予定者の準備講座として始まりましたが、現在入学予定以外の企業や機関の方々にも提供しています。

従来の日本の大学や語学学校における英語教育とは異なり、IUJ 独自の手法とカリキュラムにより、ディスカッションやプレゼンテーションだけでなく、リーディングやライティングを含め、総合的かつ効果的に対応できる能力を自然に身につけることができます。入学予定者の他、実践的な英語スキルの向上を目指したい方、海外赴任を控えている方に、非常に効果的な講座となっています。

### 「IEP」スケジュール・プログラム内容

7月上旬	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週
午 前	オーラル・コミュニケーション & リスニング・スキルズ：「聴く・話す」							
午 後	IUJ 入学予定者： テキスト・スキルズ：「読む・書く」							
	IUJ 入学予定者以外： テキスト・スキルズ：「読む・書く」				ビジネスコミュニケーション・スキルズ			
課外活動	個人指導・個人授業 多文化コミュニケーション／多文化アウェアネスの体得（ハイキング、フィールドトリップ、バーベキュー、その他アクティビティ）							

## 日本語プログラム

日本語プログラム (JLP) では、基礎、初級、中級、上級などのコースを提供しています。基礎や初級コースではコミュニケーションスキルの基礎、中級コースでは基礎的な日本語を使った応用力、上級コースでは社会問題や自分の専門について説明、議論ができる日本語力を身につけることを目標としています。また、日本語学習の成果の場として「日本語発表会」を毎年実施しています。無単位のコースとしてビジネス場面で必要な敬語やビジネスマナーを身につけるビジネス日本語コースがあります。

### 各コースの日本語到達目標

レベル	JLPTレベル	漢字数	OPI
初級	N4~5	300	初・中 ~ 中・下レベル
中級	N2~3	600~700	中・上 ~ 上・下レベル
上級	N1~2	1000~2000	上・中 ~ 上・上レベル

### 日本語集中プログラム

主に日本語を学んだことがない学習者を対象に夏期集中日本語講座を実施します。対象となる学習者は IMF 奨学生と IUJ 留学生です。ひらがな、カタカナ、挨拶、自己紹介、買い物時の会話など日常生活に必要な日本語を身につけます。



IEP テキスト・スキルズの授業風景

## 言語教育 研究センター 教員

### English

**スミス リチャード (Smith, Richard)**  
教授 ケンブリッジ大学 社会科修士号 (1980)

**クルックス アンソニー (Crooks, Anthony)**  
准教授 ディーキン大学 TESOL 修士号 (1999)

**モンデハー マイケル (Mondejar, Michael)**  
講師 コロンビア大学教員養成大学 TESOL 修士号 (2012)

**パーソンズ ダニエル (Parsons, Daniel)**  
講師 英国オープン大学 応用言語学修士号 (2011)

### Japanese

**竹内 明弘**  
准教授 モナシュ大学 日本語応用言語学修士号 (1994)

**倉品 さやか**  
講師 広島大学 教育学修士号 (2004)

**永井 絢子**  
講師 筑波大学 国際日本研究博士号 (2016)

# キャリア・カウンセリング&サービス

<https://www.iuj.ac.jp/jp/career/>

IUJ では、学生が身につけた専門知識や異文化対応スキル等「高度な実学」を十分に活用して実社会で活躍できるよう、個々人に適した職業やインターンシップを見つけ、採用に向けて行うべきことを適切にアドバイスしています。個別面談や各種ワークショップ、教員や修了生を活用した取り組み等、小規模大学院ならではの様々な支援活動を通して、きめ細やかなキャリアサポートを行っています。

## 私費学生就職実績（例）

- ・アクセンチュア株式会社
- ・株式会社イオンファンタジー
- ・株式会社シーエーシー
- ・デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザリー合同会社
- ・アーンスト・アンド・ヤング（EY）
- ・グーグル株式会社（Google Japan）
- ・石油資源開発株式会社（JAPEX）
- ・LINE 株式会社
- ・マイケルペイジ
- ・KPMG 税理士法人
- ・株式会社みずほ銀行、みずほフィナンシャルグループ
- ・日本マイクロソフト株式会社
- ・日本信号株式会社
- ・ソシエテ・ジェネラル・グループ
- ・楽天株式会社
- ・ヤマトロジスティクス株式会社
- ・ユニセフ
- 他各国政府・官公庁・国際機関等

## インターンシップ実績（例）

- ・アジア開発銀行研究所
- ・アーンスト・アンド・ヤング（EY）
- ・株式会社フィナンシャル・エージェンシー
- ・株式会社日立製作所
- ・東日本旅客鉄道株式会社
- ・KPMG 税理士法人（東京、ミャンマー）
- ・メットライフ生命保険株式会社
- ・アジア・大洋州三井物産株式会社（Mitsui AP）
- ・野村證券株式会社（東京、香港、バンコク）
- ・ナイス株式会社
- ・シーメンス・ジャパン株式会社
- ・スカイライトコンサルティング株式会社
- ・東西アセット・マネジメント株式会社
- ・プロクエスト社
- ・山田コンサルティンググループ株式会社
- ・公益財団法人環日本海経済研究所
- ・ユニセフ
- ・国際連合地域開発センター（名古屋、ケニア）

## 就職・キャリア支援の特徴

学業で多忙な学生をサポートするため、以下の取り組みを行っています。

### 【履歴書ブック（英文）の発行】

毎年キャリアセンターに登録した学生の英文履歴書を冊子として発行し、企業人事担当者へ発送、または持参して学生を直接紹介する活動を行っています。

### 【学内採用面接の実施】

企業人事担当者をキャンパスにお招きし、企業説明会のあと 1 次面接を実施しています。またテレビ会議システムなどを用いた遠隔での面接も行っています。



学内説明会の様子

## キャリアサポート 1 年の流れ

秋学期（10 月初旬～ 12 月中旬）				冬学期（1 月初旬～ 3 月中旬）		
9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
・キャリアガイダンス (9 月下旬) ・入学式	・キャリア支援登録 ・英文履歴書作成 ・学生面談	・履歴書ブック発行		オンキャンパスリクルーティング(企業説明会・面接)(1 月中旬～ 3 月上旬)		
随時個別相談 (Email 含む)						
サマーインターンシップ (2 年制プログラムの 1 年修了者のみ)			各自リサーチ (12 月下旬～ 1 月上旬)			

春学期（4 月上旬～ 6 月中旬）			夏期(1 年制 MBA のみ)(6 月下旬～ 8 月中旬)	
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
オンキャンパスリクルーティング(企業説明会・面接)(4 月上旬～ 6 月上旬)				
		・修了式 (6 月下旬) 2 年制修士課程修了		8 月末 1 年制修士課程修了
随時個別相談 (Email 含む)				
		就労ビザ切替 (日本で就職する外国人)	サマーインターンシップ (2 年制プログラム 1 年修了者のみ)	



# キャンパスライフ

	学事暦・行事	学生主催イベント 学生自治会 (GSO-EC) 主催 国際関係学研究科 (GSIR) 国際経営学研究科 (GSIM) 各学生評議会主催	南魚沼市内、市外の イベント・祭り
7月 ～ 8月	・夏期英語集中講座開始 (8週間) オプション	・夏期英語集中講座受講者ウェルカム BBQ	
9月	・学年暦開始 ・新入生向けオリエンテーション ・新入生歓迎の日		・片貝花火 (小千谷市) ・ぶどう収穫・ワイン祭り
10月	・秋学期開始 ・防災訓練	・新入生歓迎会 ・クラブオリエンテーション ・ハロウィーン パーティー ・学生自治会選挙	・八海山大崎口火渡り大祭 ・南魚沼市縦断駅伝 ・稲刈り
11月		・学内向け文化祭 (カルティフィエスタ) ・Hult Prize 学内大会 (GSIM)	・浦佐菊まつり
12月	・秋学期期末試験	・学生集会 ・忘年会	
1月	・冬学期開始	・新年会 ・論文と指導教授について (GSIR)	・婿投げ・炭塗り (十日町市)
2月		・スキーデー	・雪祭り (各市町村) ・小出国際雪合戦 (魚沼市)
3月	・冬学期期末試験	・浦佐裸押合大祭参加 ・学生による音楽会 (ウィンターブルース) ・学生集会 ・ネットワーキングイベント (GSIM)	・越後上布雪さらし ・浦佐毘沙門堂裸押合大祭
4月	・春学期開始 ・日本語発表会	・春のパーティー ・地域の方と学生の交流 BBQ ・TEDxIUJ (GSIM & GSIR)	・高田城観桜会 (上越市) ・銭淵公園観桜会
5月	・創立記念日 ・インターナショナル・フェスティバル (学園祭)	・インターナショナルフェスティバル (学園祭) ・修了生と在学生との交流 BBQ ・IUJ オリンピック (スポーツ大会) ・学生自治会選挙 ・アルバム用撮影 ・ネットワーキングイベント (GSIM&GSIR) ・2年生送り出しパーティー (GSIR)	・きものまつり (十日町市) ・八海山大倉口火渡り大祭り
6月	・春学期期末試験 ・修了式 ・2年制修士課程・博士後期課程修了	・春学期のパーティー ・修了パーティー ・ビジネスケースコンペ (GSIM)	・南魚沼グルメマラソン ・八海山山開き・火渡り大祭 ・大月ほたる祭 ・田植え
7月 ～ 8月	・1年制修士課程修了 (8月) ・学年暦終了 (8月)		・夏祭り・花火 (市内各地域) ・八色スイカまつり ・大地の芸術祭 (3年に一度開催・十日町市) ・長岡花火 (長岡市)

## ※ GSO-EC (Graduate School Organization Executive Committee : 学生自治会) について

毎年選挙を行い、多国籍なメンバーで構成される学生自治会は、学生生活をより充実させるために、季節ごとのイベントを企画・運営する他、クラブ活動もサポートしています。クラブ活動は、球技各種、バドミントン、居合道、ヨガ、ファイナンス、写真などがあり、学生のみならず教職員や家族も参加しています。

## ※ GSIR & GSIM Council (国際関係学研究科、国際経営学研究科 学生評議会)

各研究科の学生評議会は、教授陣、教務事務局と学生の橋渡しをする組織です。授業に関する相談にも乗ります。各学期ごとに教員との Q&A セッションや日ごろの多忙な学業を労うイベントなどを運営し、交流、ネットワーキングを促進しています。



スキーデー



インターナショナル・フェスティバル (学園祭)



TED x IUJ





キャンパス面積：618,261m<sup>2</sup>

## キャンパスガイド



2 MLIC 外観



2 図書館からの景色



4 体育館



2 学生寮個室



1 桜並木

- 1 **本館**  
教室、自習室（24 時間使用可）、研究室、事務室、会議室 他
- 2 **松下図書・情報センター（MLIC）** 1F: 事務室、PC ルーム 2F: 図書館 3F: ホール  
松下電器産業株式会社（現・パナソニック株式会社）の寄付により 1988 年に設立されました。学期中は深夜 0 時まで開館しています。図書館は約 10 万冊（うち洋書 8 割）の蔵書と約 1 万 1 千種類の電子書籍、約 7 万 3 千種類の電子ジャーナル及び 17 種類のオンラインデータベースを揃えています。PC ルームは 24 時間使用可能です。
- 3 **国際大学研究所** 1F: ラウンジ 2F: セミナールーム 3F: 研究室 4F: ゲストルーム（宿泊施設）  
日本及び世界が直面する世界的諸問題の解決に取り組む政策志向の強い研究プロジェクトに重点を置くことを方針とし、海外の大学や研究所と連携・交流を含む共同研究の促進・支援を行っています。
- 1 **食堂（1F）& スナックラウンジ（2F）**  
食堂は昼・午後・夜の 3 つの時間帯で利用でき、ハラルフードに対応した日替わりのメニューが提供されています。スナックラウンジは 24 時間利用可能で、学生の自習やグループワーク、パーティーなど多目的に使用されています。
- 2 **売店**  
平日は 午前 8 時から午後 7 時 まで、土日は午後 1 時から午後 7 時まで営業しています。食品、日用品、IUJ グッズの他、クリーニング、郵便、宅配便等のサービスも取り扱っています。学期中は、ハラルフードに対応した焼き立てパンも提供しています。
- 3 **エネルギーセンター**  
設備管理員が 24 時間常駐しています。
- 4 **体育館（1F）& トレーニングルーム（2F）** 5 **テニスコート（4 面）** 6 **バーベキューサイト**  
体育館は各種球技に対応し、トレーニングルームと共に深夜 0 時まで利用可能で、シャワールームも設置されています。テニスコート 2 面は照明付で、夜 10 時まで自由に利用できます。八海山を臨む広大なキャンパスは、ジョギングにも最適です。冬には周辺のスキー場でスキーやスノーボードが楽しめます。
- 1 **学生寮 1（SD1）** 2 **学生寮 2（SD2）** 3 **学生寮 3（SD3）** 4 **学生世帯寮**（原則全寮制。一部の学生は近隣のアパートに居住）  
単身寮（バス・トイレ付個室。Lan 対応、WiFi 完備）は約 300 室あり、各棟には共同キッチン、コインランドリー、ラウンジなどがあります。パイリンガルの学寮スタッフが 24 時間常駐し、対応しています。単身寮は国籍、男女の別なく部屋が割り振られ、共同生活を通じて国内外の多様な人々と交流し、国際人としての経験を深める場になっています。世帯寮（キッチン、バス・トイレ付）は 18 室あり、1F に和室の広間等があります。
- 5 **教職員寮**
- 1 **桜並木**  
4 月下旬に桜が開花し、お花見が楽しめます。写真撮影スポットとして人気の場所です。
- 2 **修了生の森**  
毎年 6 月の修了式後、各研究科の修了生が記念の苗木を植樹しています。
- 3 **自然公園**  
桜並木に隣接し、四季折々の自然を楽しむことができます。

### その他：大学バス

IUJ バスが大学ー学外アパート、浦佐駅、病院、スーパーマーケットを結んで運行しています。平日は午前 8 時から午後 8 時まで約 1 時間に一本、学期中は午後 10 時、深夜 0 時にも運行しています。土・日は、市内六日町への特別便が運行され、買い物等に利用できます。



# パートナーシップ／短期研修プログラム

## ●企業との連携

設立当初より、日本のビジネス界から広くご支援をいただいています。授業でのゲストスピーカー、特別講演会、学生や教員との共同研究プロジェクト、学生のインターンシップ等にもご協力いただき、実際の企業活動に触れる機会となっています。

## ●企業派遣生の受け入れ

開学以来、160以上の企業・機関から800名以上の社員・職員がIUJの修士課程で学び、世界各地で活躍しています。

2018年9月現在学生派遣企業（修士課程）（50音順）：

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| ・株式会社鹿児島銀行            | ・東日本旅客鉄道株式会社    |
| ・関西電力株式会社             | ・広島ガス株式会社       |
| ・コスモエネルギーホールディングス株式会社 | ・株式会社松田電機工業所    |
| ・全日本空輸株式会社            | ・三井住友海上火災保険株式会社 |
| ・ダイキン工業株式会社           | ・みずほ証券株式会社      |
| ・東邦ガス株式会社             | ・明治安田生命保険相互会社   |
| ・東北電力株式会社             | ・安田不動産株式会社      |
| ・新潟県                  | ・株式会社リョーサン      |
| ・株式会社日本経済新聞社          |                 |

## ●短期研修プログラム

<https://www.iuj.ac.jp/jp/social/trainings/>

英語を学内公用語とする国際的環境を活かして、グローバルゼーションを成長戦略の機会として捉える企業・機関に対して各種研修プログラムを提供しています。また、カスタマイズ型研修も行っています。

## ・夏期英語集中講座（IEP: Intensive English Program）

毎年7月中旬～9月上旬に開講される8週間プログラムで、少人数制（1クラス12名以下）、多国籍環境での集中学習により、実践的・総合的な英語能力の向上を目的としています。開学以来、本学入学予定者の準備講座として実施、現在は企業・機関の短期英語研修としても活用されています。

（詳細⇒p.22 参照）

## ・グローバルリーダーシップ・プログラム（GLP）

有能なグローバルマネージャーの短期育成を目的とした英語による1週間の合宿型マネジメントプログラムです（11月開講）。少人数グループに本学外国人学生がファシリテーターとして参加、海外赴任前研修としても有効なプログラムです。

## ●各国政府・国際機関とのパートナーシップ

政府や国際通貨基金（IMF）、アジア開発銀行（ADB）、独立行政法人国際協力機構（JICA）などの国際機関、国際援助機関、民間財団や他大学等と幅広いパートナーシップを結んでいます。各パートナーからは留学生への奨学援助や、各種研修事業への様々なご支援をいただいています。

## ●国内外の大学・機関との共同プログラム

明治大学、立教大学との3大学連携で「国際協力人材育成プログラム」を実施しています。また、長岡技術科学大学、JICAと連携協力に関する協定を締結、インドネシアの海外提携大学とのリンケージ・プログラムも行っています。

## グローバル人材パートナーシップ

<https://www.iuj.ac.jp/jp/social/gp/>

IUJは、わが国のグローバル人材育成の最重要拠点となるべく、多くの企業と「グローバル人材パートナーシップに関する覚書」を締結しています。

## 国際大学（IUJ）グローバル人材パートナーシップ覚書締結企業

2018年8月現在（50音順）

- |                         |                     |                      |
|-------------------------|---------------------|----------------------|
| 1. アクセンチュア株式会社          | 20. 武田薬品工業株式会社      | 39. 東日本旅客鉄道株式会社      |
| 2. アステラス製薬株式会社          | 21. 帝人株式会社          | 40. 株式会社日立製作所        |
| 3. イオン株式会社              | 22. 中外製薬株式会社        | 41. 株式会社ファーストリテイリング  |
| 4. EY 新日本有限責任監査法人       | 23. テルモ株式会社         | 42. ファイザー株式会社        |
| 5. 株式会社エイチ・アイ・エス        | 24. 東京エレクトロン株式会社    | 43. 富士ゼロックス株式会社      |
| 6. SMBC 日興証券株式会社        | 25. 東京電力株式会社        | 44. 富士通株式会社          |
| 7. オリックス株式会社            | 26. ナミックス株式会社       | 45. 丸紅株式会社           |
| 8. 花王株式会社               | 27. 株式会社ニコン         | 46. 株式会社みずほ銀行        |
| 9. コスモエネルギーホールディングス株式会社 | 28. 日本アイ・ビー・エム株式会社  | 47. みずほ証券株式会社        |
| 10. 株式会社小松製作所           | 29. 日本オラクル株式会社      | 48. 株式会社三井住友銀行       |
| 11. サントリーホールディングス株式会社   | 30. 株式会社日本政策投資銀行    | 49. 三井物産株式会社         |
| 12. 株式会社シーエーシー          | 31. 日本生命保険相互会社      | 50. 三菱ケミカル株式会社       |
| 13. GE ジャパン株式会社         | 32. 日本たばこ産業株式会社     | 51. 三菱重工業株式会社        |
| 14. JFE ホールディングス株式会社    | 33. 日本電信電話株式会社      | 52. 三菱ふそうトラック・バス株式会社 |
| 15. スカパー JSAT 株式会社      | 34. 株式会社日本取引所グループ   | 53. ヤマト運輸株式会社        |
| 16. 住友商事株式会社            | 35. 日本マイクロソフト株式会社   | 54. 横河電機株式会社         |
| 17. 全日本空輸株式会社           | 36. ハウス食品グループ本社株式会社 | 55. 株式会社 LIXIL グループ  |
| 18. 双日株式会社              | 37. パーソルキャリア株式会社    | 56. 株式会社良品計画         |
| 19. 第一三共株式会社            | 38. パナソニック株式会社      |                      |

他1社。  
\* 新潟県とは「連携に関する協定書」を締結

## 附置研究所

■ 国際大学研究所（キャンパス内）p.25 参照

■ 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター  
（GLOCOM: Center for Global Communications）

<http://www.glocom.ac.jp/>

1991年の設立以来、学際的日本研究や、情報通信技術の発展と普及に根ざした情報社会学研究を中心に、原理原則に基づいた学術的研究活動と現実社会との実践活動を並行して推進しています。産官学民の結節の場として、常に新しい社会動向に関する先端研究所であることを目指しています。

※ IUJ 東京事務所（法人本部）は GLOCOM 内にあり、志願者説明会は GLOCOM ホールにてほぼ毎月開催しています。

# 入学案内

## 2019 入試日程

<https://www.iuj.ac.jp/jp/admis/>

### 修士課程\*

(国際関係学研究所・国際経営学研究所 共通)

	出願締め切り	面接日	合格発表日	入学手続締切日
国内居住者	2018年 11月 15日 (木)	2018年 11月 29日 (木)	2018年 12月 17日 (月)	2019年 1月 10日 (木)
	2019年 2月 20日 (水)	2019年 2月 27日 (水)	2019年 3月 14日 (木)	2019年 4月 5日 (金)
	2019年 5月 7日 (火)	2019年 5月 16日 (木)	2019年 5月 30日 (木)	2019年 6月 18日 (火)
	2019年 6月 5日 (水)	2019年 6月 12日 (水)	2019年 6月 24日 (月)	2019年 7月 19日 (金)
海外居住者	2019年 2月 14日 (木)		2019年 3月 19日 (火)	2019年 4月 15日 (月)
	2019年 3月 20日 (水)		2019年 4月 19日 (金)	2019年 5月 17日 (金)

\* 2019 年度 修士課程学生募集要項・奨学金情報、及びオンライン出願登録については、大学HPをご参照下さい。<https://www.iuj.ac.jp/jp/admis/>

### 博士後期課程\*\*

(国際関係学研究所)

	出願締め切り	面接日 (この期間中に個別に調整)	合格発表日	入学手続締切日
国内居住者 及び 海外居住者	2018年 11月 19日 (月)	2018年 11月 22日 (木) ～2018年 12月 5日 (水)	2018年 12月 21日 (金)	2019年 1月 25日 (金)
	2019年 2月 19日 (火)	2018年 2月 22日 (金) ～2019年 3月 1日 (金)	2019年 3月 22日 (金)	2019年 4月 19日 (金)
	2019年 4月 19日 (金)	2019年 4月 23日 (火) ～2019年 5月 10日 (金)	2019年 5月 27日 (月)	2019年 6月 24日 (月)

\*\* 2019 年度 博士課程学生募集要項・奨学金情報、及びオンライン出願登録については、大学HPをご参照下さい。<https://www.iuj.ac.jp/jp/admis/>

## 就学必要経費 (概算)

### 学納金

検定料	30,000 円 (国内居住者) 5,000 円 (海外居住者)
入学金	300,000 円
授業料	国際関係学研究所 国際関係学 (2年制) 2,200,000 円/年 国際開発学 (2年制) 2,200,000 円/年 公共経営・政策分析 (2年制) 2,200,000 円/年 日本型開発学 (2年制) 2,200,000 円/年 博士後期課程 (3年制) 1,350,000 円/年 国際経営学研究所 MBA (2年制) 2,200,000 円/年 MBA (1年制) 3,400,000 円 日本型開発学 (2年制) 2,200,000 円/年

### 学生寮費 (LAN 使用料込) (月額、概算)

単身寮費	39,000 円
世帯寮*費	53,000 円
(* 海外からの学生優先。家族と近隣のアパートに入居可能)	

### 生活費 (月額、概算)

光熱水費	5,000 円
食費	30,000 円

### 教材費 (概算)

国際関係学研究所	30,000 円/年
国際経営学研究所	90,000 円/年

### 夏期英語集中講座 (IEP) (オプション) 受講料

IUJ 入学予定者:	・企業派遣 1,000,000 円 ・私費 500,000 円
IEP のみ受講 (企業派遣、私費):	1,200,000 円

## 奨学金

<https://www.iuj.ac.jp/jp/admis/scholarship/>

IUJ では一定の条件を満たす日本人及び外国人留学生 (原則として私費学生のみ) に対し、給付、貸与奨学金制度を設けて修学支援を行っています。申請する場合は、学生募集要項及び奨学金案内を参照の上、必要書類を出願締切日までに提出してください。合格通知とともに申請者全員に結果を通知します。

## 説明会・オープンキャンパス

<https://www.iuj.ac.jp/admission/opencampus/index.cfm?Language=J>

国内: 説明会 (東京・大阪) (通年) やオープンキャンパス (年3回) を開催しています。平日の授業見学についてはご相談ください。  
海外: 各国における留学フェアや修了生による説明会にて皆様からのご質問にお答えしています。



www.iuj.ac.jp



**キャンパス** <https://www.iuj.ac.jp/jp/about/campus/>  
〒949-7277 新潟県南魚沼市国際町777番地  
電話: 025-779-1104 FAX: 025-779-1188  
Eメール: info@iuj.ac.jp

**東京事務所** [https://www.iuj.ac.jp/jp/about/tokyo\\_office/](https://www.iuj.ac.jp/jp/about/tokyo_office/)  
〒106-0032 東京都港区六本木6-15-21 ハークス六本木ビル2F  
電話: 03-5770-1711 FAX: 03-5412-7111

